映画情報

昭和廿六年十月三日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
昭和廿九年三月十五日印刷　昭和廿九年四月一日発行
復刊第廿九号　通刊第十九巻　第四号　四月号
昭和廿六年九月十一日国有鉄道特別扱承認第二〇七四号



JANET LEIGH
(Universal)

4　1954

國際情報社發行



表紙の人　ジャネット・リイ

明日のスタア・ベスト・テンの第一位におさまったリイ。いよ〳〵可憐な娘役ばかりから女としての成長をみせる性的（セクシィ）な役柄を「勇敢な王子」では開拓しようとしている。「今まで私が持ってたのに誰も気がつかなかったのよ」と豊かな曲線美をそれとなく仄めかすあたり、トニィ・カーティス夫人としての貫禄充分である。（U・I）



表紙の人　若尾文子

「くよくよするの大嫌い」という文ちゃん。辛いこともぐっと我慢してスタア街道をまっしぐらに力走。今年はどうやら大映のNO・1スタアとして名実ともに人気絶頂点にのぼることだろう。「祇園囃子」以来、認められかけた演技の勉強もおこたりなく、「或る女」では明治情緒豊かな女心を描き出そうと頑張っている期待のひと。（小林晃撮影）

映画情報
MOVIE PICTORIAL

四月号

目次





RITA HAYWORTH (Columbia)

April 1954

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

國際情報社發行・映画情報・ピンアップ・カレンダー



WILLIAM HOLDEN
ウイリアム・ホールデン

この間来日して好男児ホールデンの人柄を眼のあたりにご披露した彼、今やパラマウントの秘蔵二枚目スタアとして芸域のひろい演技をみせてくれている。躍進めざましい彼は聖林ではブレンダ・マーシャルの夫として人気あり、オードリイ・ヘップバーンと「愛しのサブリナ」に共演中(Paramount)

ANNE BAXTER

アン・バクスター

アン・バクスターの活躍が近々にみられるのはファンにとってよい便り。「私は告白する」では人妻でありながら牧師の恋人をあきらめられず、彼のため恥も地位もすて、救けようとする役を見事にやってのけ、体当り女優アン・バクスターの魅力と演技をあらためて認めさせようという（W・B）





JANE RUSSELL
ジェーン・ラッセル

ふたたびお色気をスクリーンにふりまきすぎたとお目玉をくったジェーン・ラッセル。「でも彼女ほんとにカタイひとよ」とマリリン・モンロウが“殿方は金髪がお好き”で共演して洩らしたほどの堅気の人妻だとか。だが人妻よりお色気スタアの方がいいというのはどこのドン・ファンだろう。(RKO)

CYD CHARISSE

シド・チャリシー

アメリカはテキサス生れとはいうもの、シド・チャリシーの容貌には多くのアメリカ人が異国的な美しさを感じる。"バンド・ワゴン"での激しいまでの踊りと迫力は彼女に踊るクイーンとしての栄冠をあたえておしまない。ユニークな存在として彼女の前途は明るくひらけている（MGM）





安 西 郷 子
KYOKO—ANZAI

余りにも個性のないニューフェイスの多い中に、彼女の存在は誠にユニークなものがある。かもしかを思わすような伸びやかな姿態とまだ成熟し切っていない新鮮な果実のような感触は、映画界には稀らしい。願わくばこの新らしい星が順調に伸びて行って欲しいものだ。 （撮影・倉田達夫）



PIER ANGELI

「この頃大人になった」と云われるピア・アンジェリ。数々のロマンスが「明日では遅すぎる」のピアをここまで成長させた。目下、難しい女性役をやりたくてうずうずという（M·G·M）

A BREATH OF SPRING

PIPER LAURIE

仕事ないときは夏でもスキーがしたい、というパイパア・ローリイは大のスキー狂。もちろん一人で行ったんじゃつまらないとは正直な告白である。現代劇をやりたいとか（U—I）





KATHLEEN HUGHES

第三のマリリン・モンロウではない、性的魅力スタア・キャサリーン・ヒューズを創生しようと張切っている彼女、「ガラスの蜘蛛の網」以来スタアダムに乗出そうと一生懸命（U—I）

ハリウッド春の息吹き



RUTH ROMAN

水泳モデルからひろいあげられて恵まれないスタア街道を持前の忍耐強さで今日までのしあげて来たルス・ローマン。案外この優しいマスクの下は手ごわいことがわかる（W・B）。



MARI BLANCHARD

マリイ・ブランチャードの春のセーター姿。流し目に見る眼がコケティッシュで殿方の心を軽くゆすること受け合い。「セーターは女性の曲線を見せるから一番好きとある（U―I）



ELAINE STEWART

「ここ当分は結婚しないわ、男たち消えてなくなれ！」とエレイン・スチュアートは宣言した。その心はもっと演技の勉強にいそしむためとか。春風もそっと彼女に微笑む（M・G・M）



THE FREN

JANE
in Bubbles

ちよつとストリツプまがいの入浴シーン。ハリウツド映画にかくことの出来ない豪華セツトで、ジエーン・ラツセルが泡の協奏曲をかなでます。ブクブクブク。バブルズ（泡）の立ち具合も満点のようです。テキサス一の金持娘ジエーンが女中のテレサ・ハリスの附添いで一日の垢をながすのです。

「どう、このポーズ。わたしの足もすてきでしよう」

ジエーンはヌーツと足をさし出しました。善良なる読者諸君、芸術はどこまでもゲイジユツであります(写真左)

「ああいい気持、ご満悦つてこんな顔でしようね」

ジエーンは世にも妙（タエと読むべし）なる微笑をみせます。その顔に焦点を合わせてキヤメラをぐつと近づけますと、ジエーンは気がついて肩をあらい始めました。

「さあ、もういいでしよう。わたし、ほんとに軀を洗わなくつちやア」

ジエーンからさつさと退場しろという催促です。ではここらでキヤメラを下げて、あとは映画をごらんになつたときのおたのしみに。エドモンド・グレインジヤーが製作したこの作品、長年ピカ一スタアとしてRKOに働いたジエーン・ラツセルの最後作ということです。









CH LINE

フランス航路

RKO・1953年度作品







豪華なパリのフアツシヨン・シヨウ。これはジエーン・ラツセル、ジルバート・ローランド、それにTVスタア、メアリイ・マツカーテイ（写真右の右端）、歌手でコメデイエンヌのジヨイス・マツケンジー（同じく右写真の左端）が笑いとお色気でフアンをギヨーツとさせる「フランス航路」からの一シーンです。ジエーンはこの映画で世界一の金持ガールになり、それを今をときめくフランスの音楽喜劇スタアに扮するローランドが、鼻の下をなでなで求婚します。だが男心と秋の空のたとえどうり、ジエーンはフイアンセの心根を試そうと、偽の名前を使つてアメリカを出発、伝説に名高いフランス航路のリベルト号のひととなります。さて、ここで恋の駆引きあり、ミユージカル・シーンあり（ジエーンがおへそを見せて検閲で叱られた酒場シーンではジエーンとマツカーテイの腕の見せどころ）そしてパリのフアツシヨン・シヨウ。“ザ・フレンチ・テイン”他十曲の歌曲も織りこまれたロイド・ベイロンの最新作です。





近代都市大阪に描く庶民生活の痛々

名匠五所平之助監督が佐野周二・乙羽

「あくまでも現代そのものを描き、その中で夫々の人生を模索する庶民の生活の姿をかりて、一つの新しい、今日的意味をもつた生き方を描くべきである」

と語つた。

昼食後撮影再開、シーンは公会堂裏のポストのある道で、三田（佐野周二）が葉書を手にポストに近付くと、先方から来た通勤姿の娘（新人恵ミチ子抜擢）が同時に手紙を入れようとするので三田が躊うという場面。テストを繰返す中、芸者うわばみの乙羽信子さんが車で到着したので、人だかりは増える一方おや、彼女の出番はない筈だと思つているとうるさいことでは定評のある小原カメラマンが助監督を叱りつけている。乙羽さんの人気で撮影に支障を来すという訳である。

宿舎へ帰つて乙羽さんにインタービューする。

―芸者役をよく演りますね。

「ええ、〃女という城〃〃縮図〃と三度目ですが、今度は大阪芸者ですし、大分今までと違いますから又勉強し直さなくちや」

―五所監督や佐野さんとは？

「今度が始めてですの。五所先生のものは〃煙突の見える場所〃しか見て居りません」

―今度の映画で難かしいところは？

「うわばみは大酒飲みなので、お酒の飲めない私は弱つています。それとささと三味線をお稽古しなくちやならないんです」

夜に入ると三田とうわばみの逢う夜の場面の撮影が始まつた。午後八時開始の予定が午前一時になり、合計三百粁の十数個のライトが堂島川を照らす中を二人の芝居が続く。有名な凝り屋の小原キヤメラマンのライティングは慎重を極め、朝までに僅か四カットを撮り終えただけだつた。



乙羽さんの芸妓うわばみは、大酒飲みである。猪口に二、三杯がせい一杯という乙羽さんは何とかして飲めるようになりたいと酒飲みの猛練習をしたという。彼女は三田を愛している。その照れ臭さを酒でごまかすのだ。



五所監督と乙羽さんは銀座を三日も歩き廻つて衣裳を探したと云う。漸く気に入つたのがこの衣裳であるが、写真は五所さんと一緒に見番で。



大阪芸者は、今まで乙羽さんのやつた芸者とは又違う所が多いのでなかなか難かしい。乙羽さんは見番に赴いて熱心に帯の締方を習つている。



夜明けが近ずいて来た。夜の明けない中にもう一カツトと五所監督が張切れば、佐野、乙羽の御両人ももう一息と頑張る。夜間撮影も辛い哉。





しくユーモラスな生活譜

信子のキャストで描く野心大作

新東宝作品

Lodgement in Osaka

五所平之助監督の文芸大作



大阪の宿

昨年「煙突の見える場所」を発表して、第三回ベルリン国際映画祭で受賞した五所平之助監督は、今度愈々数年来の懸案であつた「大阪の宿」を映画化することになり、二月初め大阪ロケから撮影を開始した。以上はその随行記である。

列車が名古屋を過ぎる晩から夜目にもしるくチラチラと降り出した雪は関ケ原にかかる頃最も激しく、大阪の天候を案じさせたが、京都辺りから小止みとなり、大阪駅のホームに辷り込んだ頃は一点の雲もない晴天となつた。休む間もなく朝食後直ちに撮影が開始された。場所は中の島公園、準備が完了した頃にむくむくと現われた黒雲に撮影は不可能となり、直ちに宿屋へ帰つて待機となる。

「大阪の宿」の原作は、三田文学の重鎮であつた今日のサラリーマン文学の祖とも云うべき故水上滝太郎で、大正末期の大阪を背景にして、安ホテル酔月荘に止宿する一サラリーマンの暖いヒューマンな眼に映つたこの土地の庶民の姿を、抒情と写実の融け合つた気品のある文章で描いたもの。これを映画では、背景を今日の大阪に置き換えているが、五所監督に演出意図を訊くと、



大阪中之島公園の夜間ロケ、夜更けと共に膚を刺す寒さはつのり、流石頑張り屋の乙羽さんも些か音を上げている。右は付人の中村さん。



お米は十八、十四の時から男を知つているという淫らな女である。彼女はとつつき憎い三田を口説こうと躍起になつているが、一向に成功しない。



三田喬一（佐野周二）はしがない保険会社の会社員である。彼に惚れているのが大阪の芸妓うわばみ（乙羽信子）と女中お米（左幸子）である。



香港の 波止場

（PANA・本社特約）

山口淑子

SHIRLEY－YAMAGUCHI

南支の紺碧の空を背にしてシヤーリイ・山口が明るい表情を見せる。あの小高い山の上にイサム・野口との幸福の巣があるのだろうか　香港では異例の優遇をうけて「金瓶梅」に主演する彼女。大陸に　世界に大きく伸びようとするシヤーリイの飛躍の逞しさが 明るい コートの下からのぞいている。

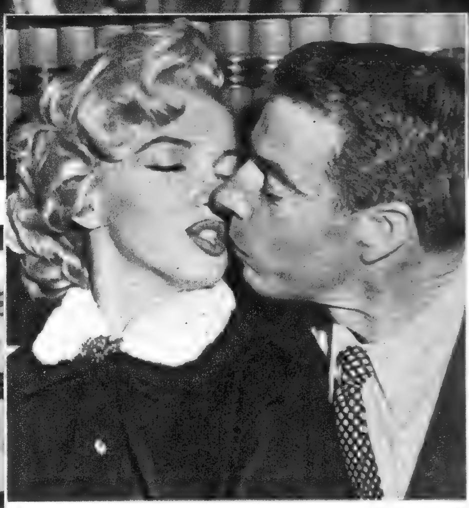




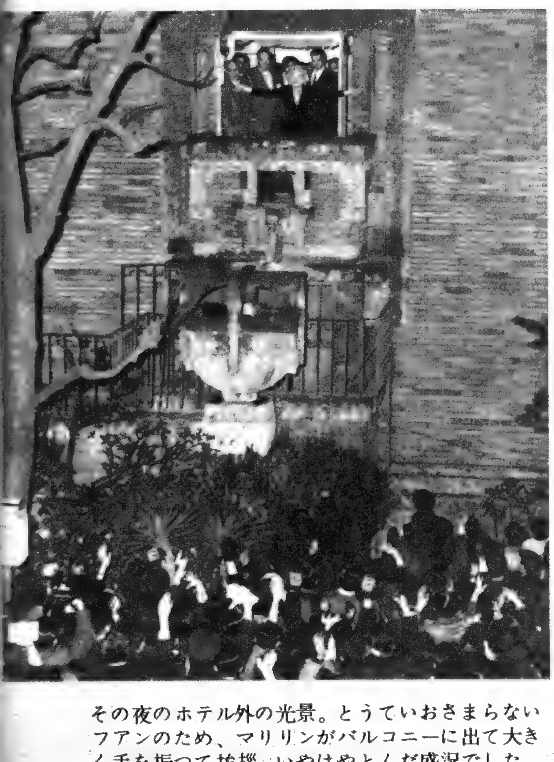
性の女王・来朝

マリリン・モンロウ旋風

海のあちらのお話でさえ大変なさわぎのモンロウが、新婚ほやほやで夫君のジヨウ・デイマジオについて日本へ、という報で、東京は一時、上を下への大騒ぎ。モンロウ旋風とはまことに恐しきものかナと感じさせた次第。二月一日、羽田空港についたモンロウは、しかし、噂にたがわず見事な社交ぶり、"ハロウ"とか"イエス"と言葉少く語るその一つ一つにも殿方を悩殺する甘い調子。映画ほどではないが適度にお尻をふつて、タイトなスカートに張り切れそうな脚線美を浮彫にしたセツクス・クイーンの到着ぶりでした。暖かい国から寒波到来の日本に来たせいか、キヤメラの攻撃を縫つて病院通いをするやら旋風の中心も大分被害があつたようでした



一月十四日「まだそんなこと考えていない」という声明も消えやらぬ喧騒のさなかに、マリリンはサンフランシスコで結婚。「あんまりせわしい式だつたから花嫁にキツスするのを忘れた」と牧師を嘆かせた歴史的一瞬です。



その夜のホテル外の光景。とうていおさまらないフアンのため、マリリンがバルコニーに出て大きく手を振つて挨拶。いやはやとんだ盛況でした。



飛行機の裏口から帝国ホテルへ逃げ込んだ夫妻。豊かな胸の奥までのぞかせて、超タイトなスカートでマリリンが行くと女中さん、茫然の構えです。



二月一日午後六時、新聞雑誌記者陣、宝塚少女歌劇、その他有象無象の群れ集る中にマリリンがミンクのコートで姿を現したが一瞬戸惑いの表情。





春風の武蔵野へ

若尾ちゃんと山内さんの スピード・ハイキング

ライラック号に乗つて……

長い冬も漸く終りを告げて、武蔵野の水も温む春の息吹きが、人々の胸に明るい希望をささやきます。小春日和の一日、青春の歓びに胸おどらす若尾ちゃんと、久し振りに仕事から開放された山内明さんが、揃つて春の武蔵野にスピード・ハイキング……。

今流行の軽自動車をフルスピード、多摩の清流をさかのぼつて、楽しい一日、「この辺は昔のままだなア、中学生の頃に友達と歩いたのもこの道さ……」と山内さんが微笑めば、「私も女学校のお友達、思い出しちやつた」と若尾ちゃん。

思い出を呼ぶ武蔵野にご持参のお菓子を開いたお二人は、顔を見合せて、どちらからともなくにつこり、再び車上の人となつて、後になり先になり、終点は大映多摩川スタジオをひかえた京王多摩川の真白い河原道でした。（撮影・小林晃）



“まあおいしそうねエ” と若尾ちゃんが……

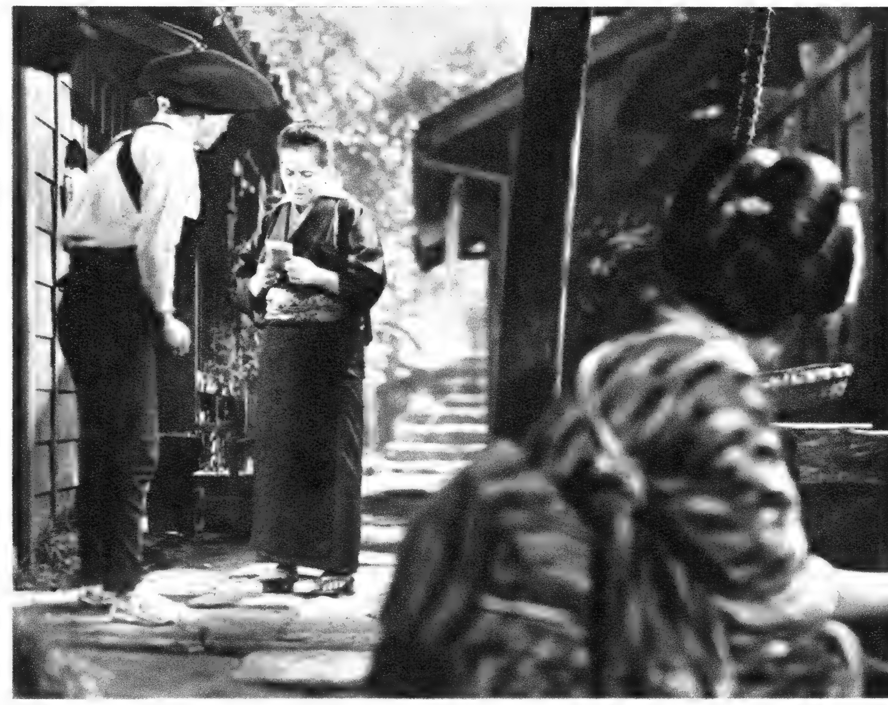


“文ちゃん後ろに乗らない” と山内さんご満悦



ゆるやかな川の流れを見下す堤の上で一休み













早月葉子（京マチ子）

〃幸福は自分で摑まなきゃ……〃という純情な葉子。だがその淡い夢もはかなく破れて、傷心の身を新しい、そしてより良い自由と希望を求めて船出した葉子だつたが、思いがけない倉地の出現に今迄の凡ての失望を取り返して……。

倉地三吉（森　雅之）

〃俺は負け惜しみを云うのは嫌だ。こう、している今でも、女房や娘たちの事を思うと不憫になつて来る。それがなきや、俺も人間じやない。だが俺はこれでいい。お前と抱き合つて、埋れ木になるのなら満足この上なしだ……〃

木部孤笻（芥川比呂志）

「うば玉のやみの命と泣きつるに、君ゆえに春の月夜となりにけり……」葉子と結婚し、幸福な生活に酔い、詩を口吟む天才記者、しかしこの夢多き詩人には葉子をして余りにも夢と現実生活との矛盾を感じさせるのであつた。

葉子の妹愛子（若尾文子）

〃一生懸命に幸福を求めてらしたお姉さまが……そんなに弱く哀れにおなりになつて……〃葉子のたつた一人の妹として姉を愛し頼りに生きて来たのに、可憐な乙女心に映る姉葉子の姿は、余りにも愛子の心を寂しいものにした。

構想に三年有余を費した東宝の陽春大作「福沢諭吉」は、教育界の先覚者諭吉の青年時代を描くもので、慶応出身の小林一三社長のかねての念願を実現したもの。監督は福沢諭吉と同郷の熊谷久虎で、諭吉には六代目菊五郎の御曹子尾上九朗右衛門が扮する他、東山千栄子、小川虎之助、三好栄子、中北千栄子、二本柳寛等の他、諭吉の相手役たる妻錦に第五期ニユーフエイスの東静子と増田栄太郎の大役に第六期ニユーフエイスの宝田明が抜擢されることになつた。

東静子は本名中谷静子、東京生れの江戸ッ児で、何の縁古者、推せん者もなく新聞広告を見てニユーフエイス募集に応じ、一年半の努力が身を結んで今回の大抜擢となつたもの。日舞、お茶、お花などクラシックな趣味を持ち殊に歌舞伎は熱烈なフアンで、故六代目には深く傾倒していただけに、その御曹子たる九朗右衛門と共演するので必ずこの抜擢に応えようと猛烈な頑張りを示している。

一方宝田明は、インテリジエンス豊かな近代味と五尺九寸、十八貫五百匁の堂々たる長軀と、加えて若冠十九才の若さが高く評価され、ニユーフエイス養成所当時から撮影所内の注目を浴びていた。趣味、特技としては、水泳柔道、マラソン、歌曲独唱、書道、絵画等。

この両人の芸名の頭文字を綴り合せると東宝となり、今年度のホープである。次に物語を紹介すると、

九州奥平藩の下級武士の子として生れた福沢諭吉（尾上九朗右衛門）は、嘉永六年、大阪に出て蘭学を学んだが江戸に来てからは更に独学で英語を習得した。その甲斐あつて幕府の渡米使節派遣に随行できたが、帰朝後は鉄砲州の塾で英語を教え始めた。

諭吉が同藩土岐の娘錦（東静子）をめとり、再び欧洲外遊の途についた頃は、世上は開国攘夷の議論沸騰で上を下への大騒ぎ。しかし彼は帰国後、専ら学問の必要を力説して慶応四年、三田に慶応義塾を創設した。朝吹英二・中上川彦次郎等明治の草創期に活躍した幾多の俊才がそこに集つた。

妻の姉今泉たう（中北千枝子）は、初めは諭吉を誤解して妹を連れ戻しに来たが、やがて彼の真意を諒解、却つて自分も共々塾生たちの面倒をみようといい出した。彼女は勤王佐幕に別れて騒ぐ塾生たちを叱呼し、時にはナギナタを振廻したりして彼等の心を学問へと振り向けた。

その頃故郷の母お順（東山千栄子）は江戸に来ていて、諭吉と共に暮していたが、病を得て臨終の朝も迫つていた。外は討幕の砲声轟く講堂で、諭吉は泰然と塾生達に講義を続けていた。









有島武郎の文芸大作映画化

原作は日本文壇の巨星有島武郎の傑作で、新らしい女を創造する意欲に燃えた彼が、封建と因習の世界から飛び出し、自我のめざめを意識しつつ肉体の弱さに崩れて行く女の儚なさを肉欲と霊の相剋の中に香り豊かに描いたものである。脚本は八住利雄、監督はスタヂオ・エイト・プロの豊田四郎、京マチ子、夏川静江、若尾文子、芥川比呂志、沼田曜一、船越英二、森雅之、信欣三、滝花久子、小田切みき、長岡輝子等が出演している。

豊田監督は、「“或る女”の葉子は原作者が、“性欲の極点に生きた女”と言つているように、まことに能動的な女で、大きな社会的背景を持つていますから、封建的な制約に押しつぶされ乍ら戦つて行く女の悲劇を描くには、女を追求しながらこの直面する壁を描かねばなりませんが、限られた尺数の中で如何にこの社会的背景が出せるか研究してみたいと思います」と語つている。



豊田四郎監督の

或る女

大映東京作品

福沢諭吉

東宝作品

熊谷久虎監督の陽春の野心作

教育界の先覚者の波乱の半生を描く







個性の美

山本富士子
FUJIKO-YAMAMOTO

近代的美貌の人山本富士子さんの輝くばかりの美くしさ、「淺草物語」 から、いま多摩川の大映スタヂオで第二回の天然色映画「金色夜叉」でお宮に扮して活躍しています。最も新しい山本さんのお宮に期待しようではありませんか……

（撮影・倉田達夫）





貫一（根上淳）は、固く将来を誓つた恋人のお宮が、富豪富山の誘いで熱海に行つたと聞いて、怒りに震えたが、お宮の父親から〝二人の約束は今日限り水に流すように〃と云われると言葉を返すことも出来なかつた。友人荒尾（菅原謙二）の好意で、急ぎ熱海に向つた彼は、あしかしその日限り純情な青年の姿はこの世から姿を消していた。

お宮（山本富士子）は、心に決めた貫一がいる以上、母親の言葉に見向きもしなかつたが、悲しい古い女の弱さであろうか、さとされ、頼まれ、泣かんばかりに奨められると、次第に彼女の気持も崩れていつた。しかし富山（船越英二）との結婚は不幸の連続であつた。

富山は、新年歌留多会の席上で一眼見てお宮の美しさに惹かれ、巨大な財力に物を云わせて執拗にお宮と結婚を迫つた。だが、願い叶つてお宮と結婚はしたものの、名のみの妻の心がいまだに行方知れない貫一のもとにあると知つた彼は、次第にまた外に楽しみを求めるようになつた。かくて、二人の間には、冷たい日々が続くのであつた。





山本富士子・根上淳・菅原謙二で描く

大映第二回天然色

金色夜叉

大映が昨年の「地獄門」に続いて取り上げた第二回総天然色映画で、原作は云わずと知れた尾崎紅葉の余りにも有名な傑作である。監督脚本は島耕二、撮影は高橋通夫、音楽は斎藤一郎で、キャストは宮に山本富士子、貫一に根上淳が新コンビを成し、その他信欣三、細川ちか子、水戸光子、船越英二、菅原謙二、浦辺粂子、夏川静江等が出演している。





有 馬 稲 子
INEKO—ARIMA

読書を好み、絵をこよなく愛するネコちゃんは、生れついての芸術家である。余りにも華々しかったデビューに続く矢継早の出演で眼を病んだ彼女は今充分な休養をとつて新らしい作品の準備におさおさ怠りない。これはそんな或る日のスナップ。 （撮影・倉田達夫）



草笛光子
MITSUKO—KUSABUE

横浜の女学校で彼女は岸恵子の一級下だったが、二人は大の仲良しであった。ＳＫＤへ進んだ彼女は歌と踊りで、やがて断然頭角を現わしたが、在籍中に映画へ出演するようになり、映画スターとしても嘱望されている。歌劇出身では近来の大物スターとしてクリちゃんの今年の活躍こそ観物だろう。

河　内　桃　子

MOMOKO−KOCHI

一昨年の岡田茉莉子、昨年の有馬稻子、そして今年は彼女が東宝随一のホープとして売り出されようとしている。既に「女心はひと筋に」でお目見得した訳だが、名門の家に生れた彼女は自らなる品位を具えている。　　　（撮影・倉田達夫）



筑　紫　あ　け　み

AKEMI−TSUKUSHI

「花と波涛」の主役に抜擢されたばかりで、まだ映画も封切られていないから正直のところ海のものとも山のものとも分らないが、逢った感じでは清潔な美貌の奥に祕めた並々ならぬ意志の强さが感じられて大いに賴もしい。　（撮影・小林晃）











LETTER FROM AN UNKNOWN WOMAN

忘れじの面影

ジョーン・フォンテイン、ルイ・ジュールダンの悲恋絵巻

伝記作家、また小説家として有名なステファン・ツワイクの短篇小説「未知の女からの手紙」の映画化で、監督はザール生れのマックス・オフュルスでフランスの映画、舞台、放送で俳優、監督、製作者として活躍した。「輪舞」「快楽」も彼の作である（物語）どしやぶりの深夜のウイーン。ステファン・ブランド（ルイ・ジュールダン）の許に未知の女からの手紙が渡された。——この手紙があなたの手に届きましたら私が何者であり、どうして私のすべてを捧げるようになつたかお判りと思います——。

執筆者はリーザ・バンドン、十年前のことから話がおこされていた。

リーザが人生を自覚したのは十五の時、天才ピアニストと謳われたステファンが同じアパートに越して来たときのことだつた。しかし流行児のステファンにとつてリーザは路傍の娘にしか映じなかつた。

舗道に薄く雪が積つてガス燈にかくれてステファンの窓を見上げていたリーザは彼の姿を舗道に認めてドギマギした。「あなたは二、三日前もここにこうしていらつしやいましたね」喜びとはじらいで返事の出来ないリーザに街の女のような気易さでステファンは先に立つて歩いた。その夜降りしきる雪のしじまの中で女としての最初の扉は開かれたのである。

二週間後の再会を約してステファンがミラノへ旅立つた後、リーザは新しい生命の誕生を知つた。彼女は幼いステファンのためジョン・ストフアーと結婚した。リーザの誕生日の夜、ジヨンは妻をオペラに誘つた。そこでリーザは再びステファンを見た。しかも一人の女に接吻している彼をである。こうしてリーザの生活はまたも揺いだ——

——手紙は途中で切れ、添付された紙片には「臨終の際、患者があなたの名を呼んだのでお送りします」とあつた。雨あがりの維納の朝は静かにあけて行つた。









佐田啓二

KEIJI—SADA

「君の名は」で一躍人気男優のトップにのし上った佐田さんは、その余りな人気に途惑っているかのように見える。だが若さと健康に溢れた瞳は飽くまでも澄んで、人気者となっても相変らず口数少なく孤独を楽しんでいる。(撮影・小林晃)



帰らざる河
RIVER OF NO RETURN

世界の注目の的、マリリン・モンロウがカナダにロケして、ロバート・ミツチヤムと開拓女のすさまじい闘魂をご披露する。相変らず悪白人とインデイアンが出現するが激流に筏を流すクライマツクス・シーンは見ものといわれる。このロケの最中、モンロウは足首を捻挫したが、ミツチヤムと初めて楽しい仕事をしたと洩らした。監督はオツトー・プレミンガー（廿世紀フオツクス天然色）



幸運な私
LUCKY ME

「幸運な私」という題名からも感じられるドリス・デイのミユージカル、この映画の前に過労から一時休んでいたので問題にされたドリス・デイが、元気になつて始めて出演したジヤツク・ドナヒユー監督作品で、ロバート・カミングスが久しぶりに顔合せする。愉快なドリスの唄声と、殿方を二度ふり向かせる彼女の明るく健康な瞳があなたを惹きつけるという。（W・B天然色）



指　令
COMMAND

ワーナー映画のトツプを切つて封切られる「指令」は横二十米に及ぶスクリーン一ぱいに、赤い土煙をあげる駅馬車とそれを追うインデイアンの高い声。新しい男性美スタア、ガイ・マデイスンがジヨーン・ウエルドンと共演して、危険にさらされる駅馬車輸送の北軍兵士に扮し、タフで情熱的な演技を見せる。監督はデイヴイツド・バトラー（W・B天然色）

シネマスコープの五大作

NEW SUCCESSFUL CINEMASCOPES

去年の春、３Ｄ映画の誕生とシネマスコープ撮影開始のときから、その是非について耳にタコが出来るほど話されたシネマスコープは、「聖衣」の公開を機に、とうとうその偉大な興収を背景に、ハリウッドに君臨しはじめたようだ。最初、自社独自のワイド・スクリーン・システムで行こうとした各社も、結局はシネマスコープに統一されたらしい。近く、新年度の洋画作品公開もきまり、日本でも四月から晴れてスクリーンに公開される。その第一陣にはメトロの「円卓の騎士」フオツクスの「十二哩の珊瑚礁の下に」ＷＢの「指令」がある。この一月中にアメリカの映画フアンが見た映画をここに紹介すると、シネマスコープ作品が俄然トツプを占めている １、円卓の騎士、２、これがシネラマだ、３、「十二哩の珊瑚礁の下に」４、百万長者と結婚する方法、５、雨に濡れた欲情（リタ・ヘイウオースの３Ｄ）６、カイバー銃の王（タイロンパワーとテリイ・ムーア共演）７、ホンドー（ジヨン・ウエインの３Ｄ）８、女たちが来るよ（パラマウントの音楽映画）９、愛はやすし（メトロのエスター・ウイリアムス主演の水泳映画）10、彼女とご帰宅（ジヤネツト・リイ主演のミユージカル）というところで、１、３、４、６がシネマスコープであつた。これで、全米に五千館の閉鎖上映館と大企構をかまえたハリウツドが、のるかそるかの一戦で、再び豪華映画を作りあげる傾向がはつきりしだした。３Ｄからシネマスコープ女優にのし上つたマリリン・モンロウ、テリイ・ムーア、ドリス・デイ、エヴア・ガードナー（円卓の騎士）への声援も高い。このスチル集は実際のシネマスコープのスクリーンに比例して作つたもので、読者は、この寸法でスタアを見、映画の中にある背景を感じるわけである。念のため、シネマスコープの黒白映画は今のところ製作されていない。



１２哩の珊瑚礁の下に
BENEATH THE 12-MILE REEF

シネマスコープの本家二十世紀フオツクスが最近公開して人気を博しているこの作品では、若い二人のスタア、ロバート・ワグナーとテリイ・ムーアのスクリーン内外のロマンスを生み出す契機になつた。フロリダ州ターポン・スプリングズにロケして亜熱帯的な椰子とスポンジ採取の海の男たちの生活を描いているロバート・Ｄ・ウエツブ監督作品（廿世紀フオツクス天然色）



スタア誕生
STAR IS BORN

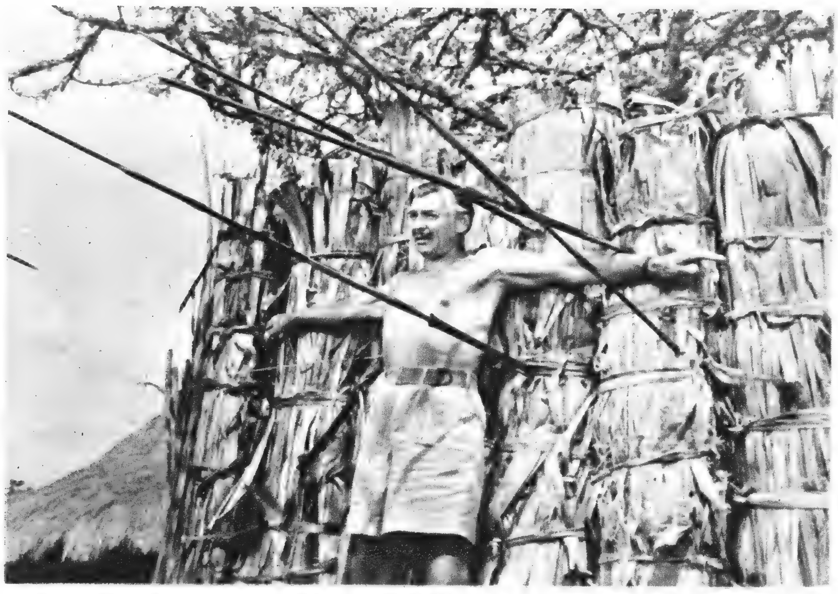
「イヴの総て」以来「悪人と美女」「女優」などハリウツドの内幕ものを描いて来たその中で、「スタア誕生」は往年のＦ・マーチとＪ・ゲイナーの再映画化で初のシネマスコープを使つて、しばらくスクリーンから退いていたジユデイ・ガーランドが見事にカムバツクする第一回作品。相手役にジエイムス・メイスン、ジヤツク・カースンを得た。監督はジヨージ・キユーカー（Ｗ・Ｂ天然色）



外国映画ベスト・4

MOVIE PICTORIAL

映画情報



エヴアが文明社会に帰る起点の部落では土人が駐在官を瀕死の目にあわせていた。ゲイブルも九死に一生の命をひろうが、これでエヴアも一行と同道せざるをえなくなる。



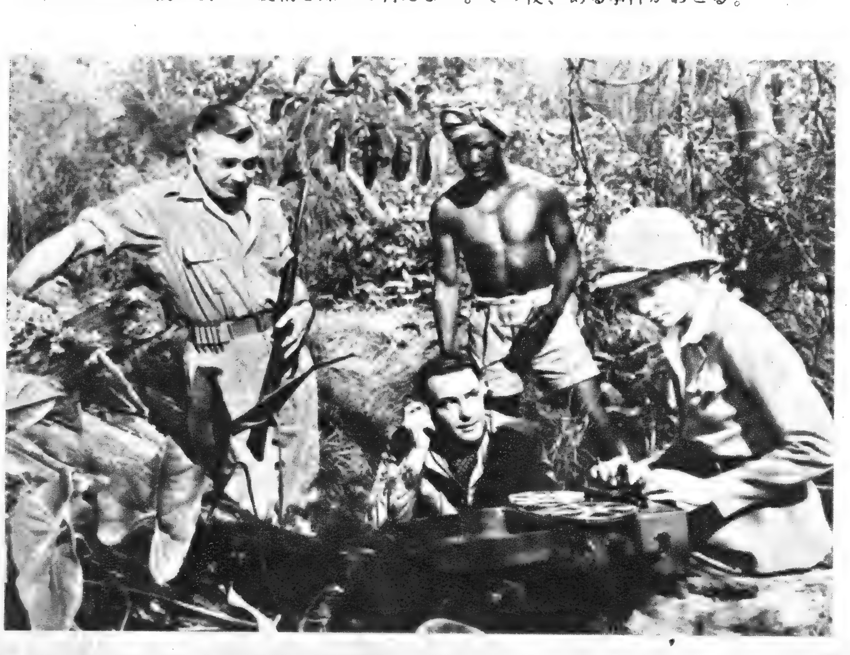


M・G・M1953年度天然色作品

モ　ガ　ン　ボ

MOGAMBO

原始のままの姿をたもつアフリカの奥地に入つてその生態を描くことは今日も人々の冒険心と興奮をよびおこす。西部劇のジヨン・フオードがクラーク・ゲイブル、エヴア・ガードナー、新人グレイス・ケリイの三人を得て、今度はゴリラの棲息地として知られる仏領赤道アフリカまで入つてその生の叫び声をキヤツチして来た。野生の地に競われる男女四人の愛欲と闘争と人情をあつかつた作品として期待される。（物語）ゲイブルは野獣をとらえてはサーカスや動物園に売り込む狩猟家である。ある日、有名な踊り子でこの地に遊ぶ印度王子のところへやつて来た白人の女（ガードナー）は王子が旅立つた後と聞きがつかりする。ゲイブルは彼女に強くひかれる。翌日、ゴリラの生態を調べる生物学者ドナルド・シンデンと妻グレイス・ケリイがやつて来る。ガードナーとグレイスはその最初の対面から何か反撥するものを感じた。グレイスはその夜一人歩きに出て猛獣の前に立ち危いところをゲイブルに救われる。翌朝、渋つていたゴリラ調査にゲイブルが同行すると聞き、グレイスは彼の気持が自分に動いているように感じた。途中まで同行するエヴアも土人の不穏で最後まで行を共にすることになつた。グレイスとゲイブルは親密の度を加えるが、エヴアが好意を示せば示すほど、グレイスにはそれがあてつけがましく感じられるのだつた。ゲイブルは秘密にたえかね、ドナルドに打明けようとするが彼の妻への愛情を知つて言えない。その夜、ある事件がおこる。





探偵マルコはエイメと恋仲になる。ある夜二人は庭の奥の小屋で逢引きし、犯罪の前夜ダ・コスタがヴイツシアに暴行を加え、彼女の死はその醜聞を中絶させる為だと教える。





仏・アンリイ・ドコアン1953年度作品

上　級　生　の　寝　室

LE DORTOIR DES GRANDES

「真夜中の愛情」についでジヤン・マレエがジヤン・コクトオの許をはなれて作つた最新作で、いつもの恋人役に変つて真面目な探偵役。若い十七人の女学生は監督アンリイ・ドコアンが選んだ新人で、フランソワーズ・アヌウル、ニコオル・ベナアルが注目される。（物語）メレモンの女学生は十八人の女生徒を寄宿させたまま厳格な教育を施している特殊な塾形式の学校で、雰囲気はすこぶる高踏的で贅沢である。ところがこの上流家庭の女生徒ばかりのある寝室で一人の生徒が絞殺されているのが発見された。探偵マルコ（マレエ）が選ばれてくるが女校長や先生達の反感を買い、一方では女生徒たちに職務の重大さにふさわしくない興味を感じさせたので仕事は進まない。中でもエイメ（アルヌウル）はマルコに惹かれ助手になる。村に集つた生徒の親の間に、死んだヴイツシアの母親とヴイツシアに言寄つているダ・コスタという男がいた。また、殺人当夜は女生徒たちが消燈後にする幽霊遊びにベツテイナという生徒が加わつてないことが分る。その上、ヴイツシナはカメラを持つていて校内でおこるいろんなものを撮つていたことをマルコは知つた。多分これがヴイツシナの命を失う原因になつたのだろう。しかも彼女の死後、ある未知の人間が彼女のとつたフイルムを受取つているのをマルコは知つた それには女校長と舎監とベツチイナの偽のサインがしてある。マルコは賞状授与式の日学校全員のいる前で殺人事件の種あかしをする。事件はどう進展するだろうか。



ピンアップ・シート

PREVIEW ROOM

誌上試写室





村へ脱走して来たフランチエスコは正々堂々とボルフイリオと闘おうとする。彼の誰にも頼らない闘志と自負心は、やがてはおじけた村民の眼をさめさせるのだつた。





伊・ルツクス・フイルム1950年度作品

オリーヴの下に平和はない

NON C'E PACE TRAGLI ULIVI

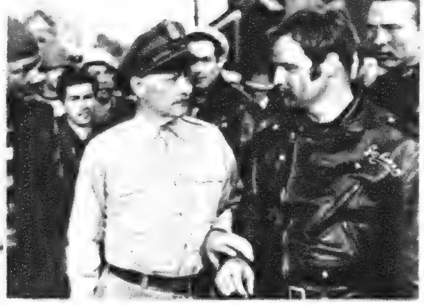
オリーヴの木は南欧原産の常緑樹だがその枝は“平和”を象徴する。舞台になるチョチヤリアの丘陵地帯はローマとナポリのほぼ中間に位し、いたる処にオリーヴがある。が因襲と族長制のきびしいこの地方に生まれた監督ジユゼツペ・デ・サンテイスは時代にめざめた民衆の怒りを訴えようとした。(物語) 中部イタリアの丘陵地帯。村の者は羊群を飼つて生活を立てている。冬が近づき、山から暖い海岸地帯へ群を追つて下りて行く。フランチエスコ(ラフ・ヴアローネ)は両親と妹マリア(マリア・フランチヤ)の許に復員してくると羊の群は去り貧困だけが彼を待つていた。羊は土地の成金ボンフイリオ(フオルユ・ルリ)に盗まれたので、それを知つているのはフランチエスコの恋人ルチア(ルチア・ボゼー)だけだつた。フランチエスコは合法的に羊をとり返そうとするが仕事に忙しい村人は貧しい彼の一族のことなどかまつていられない。フランチエスコは一夜意を決してボンフイリオの羊群から自分の印のついた羊を盗み返した。しかし警察もボンフイリオの味方だつた。頼みの綱ルチアも貧乏な両親のため偽りの証言をしボンフオリリオの結婚を承諾せざるを得なかつた。この時、マリアがボンフイリオの魔手にかかつたのと分る。村の男が下に降りている間に土地の貸借権を獲たボンフイリオは女たちに無理矢理に地代の値上を迫る。この時フランチエスコは脱獄し、今は村人と協力してボンフイリオの権力を村から追い払う。オリーヴの下に再び平和は訪れた。





酒場のウエイトレス、カシーは乱暴者ジヨニイの瞳にも美しく映つた。見かけによらず内気な彼は、びつくり仰天するカシーの胸ぐらを物も言わずにつかむだけだ。





コロンビア1953年度作品

乱　暴　者

THE WILD ONE

独立プロを作つて、異色作(セールスマンの死、白昼の決闘)を次々に作つたスタンリイ・クレイマー製作者がマーロン・ブランドを主演させて問題を放つた作品。監督は「セールスマンの死」のラズロ・ベネデイツクである。(物語) 黒いジヤンパーに身を包んだ無法のオートバイ選手の一団がライツヴイルのオートバイ競走から締め出しをくい行きがけの駄賃に賞牌をかつさらつた。一行は程遠からぬある町に乗込み酒場に陣取つて傍若無人の振舞いを始めた。見かねた巡査ハリイ(ロバート・キース)が制止に入つても親分格のジヨニイ(マーロン・ブランド)は無口で兇暴で却つて手を引けと威嚇する始末だ。ジヨニイは酒場のウエイトレスのカシー(メリイ・マーフイ)を追いまわし威圧的な調子であいびきを迫るが、彼女がハリイの娘と知り中途でそれをやめる。そこへチヤイノの率いる一団が乗込んで来た。彼らはジヨニイと犬猿の仲だつたので、“半ば冗談、半ば本気のトロフイ争奪戦”を始めて町は大混乱に陥る。ハリイはチヤイノを牢に入れたのでジヨニイは怒りカシーに当つた。町民の不安と共に町は静まり返つた。酒場に陣取つた連中は電話を破壊しチヤイノが牢に入れられるきつかけになつた町民トーマスを家から連れ出してチヤイノのいる留置場にぶち込んだ。チヤイノの一団はカシーをジヨニイの女と思いオートバイで追いまわし出した。ジヨニイはそれを救い始めて二人は心と心をふれ合せた。カシーは父をいじめないでくれと頼みジヨニイは自首する







愛すべき御婦人たち

ADORABLES CREATURES

クリスチヤン・ジヤツクの「花咲ける騎士道」につぐ最新作である。一人の青年（ダニエル・ジエラン）が結婚したとき今迄の自分の恋愛行脚を想い出して行く。最初の恋人は人妻ダニエル・ダリユウだつたが女は彼の気も知らず夫の許にかえつて行く。アパートの隣室のカトリーヌ（A・ルアルデイ）父娘は彼の慰め役だつたが、代数の勉強をしていたお下げ娘が、会社の脚線美人コンクールに入選してアンドレは初めて娘の成長に気がつく。しかしアンドレの方にもロマンスが待つている。離婚したてのマルチン・キヤロル、中年だが金持で魅力あるエドウイジエ・フイエール等々。そして結局ダニエルはカトリーヌと今結婚した。人生はこれからだ





禁断の木の実

LE FRUIT DEFENDE

フランスーの喜劇役者フエルナンデルが新しい肉体派女優として誕生したフランソワーズ・アルヌウルと共演するアンリ・ヴエルヌイエ監督作。ジヨルジユ・シメノンの原作である。母親と二人の子供と再婚した妻を抱えた、田舎の中年の医師シヤルル（フエルナンデル）は旅先で会つた小娘を看護婦兼情婦として連れかえり愚行を重ねる。しかし単調な生活に捲きた娘は彼の許をとび出す。呆然としたシヤルルを迎えるのは妻や家人だつた。





悪魔をやつつけろ

BEAT THE DEVIL

「赤い風車」のジヨン・ヒユーストンが「アフリカの女王」のコンビ、ハンフリイ・ボガードのプロと提携した新作。イタリアの小さな港町に来たビリイ（ボガード）は秘かにアフリカに渡つてウラニウム鉱を発掘しようと考えている。船が出航するまでの数日中に、ビリイは黄金欲にとりつかれている人妻グエンドールン（ジエニフア・ジヨーンズ）に会い彼女の気を惹く。妙なことにビリイの催したパーテイを機にビリイの妻マリア（ジナ・ロロブリジーダ）はグエンドールンの夫ハリイに夢中になり異常な空気のまま一行はアフリカへの船上の人となる。ところが海上で騒ぎがおきハリイは行方不明になる。やつとのことで砂浜にたどりついた一行の前に待つていたのはアラビア人の銃弾と、死んだ筈のハリイからの「政府の許可を得てウラニウム発掘に行く」という電信だつた。



MOST—TALKED—ABOUT EUROPEAN PICTURES

欧州映画の問題作





ボルジア家の毒薬

LUCRECE BORGIA

悩殺女優というタイトルを頂戴したマルチン・キヤロルが夫君クリスチヤン・ジヤツクの監督で肉体を惜しげもなくさらした十五世紀の絵物語。一四九八年のローマ、謝肉祭の夜、ルクレチア（キヤロル）ボルチアは謎の美男子に会つて固く結ばれる。権力者の家に生れ美貌の彼女も、実は兄の政略結婚の道具に使われる身であつた。その翌日はルクレチアがアラゴン公（マツシモ・セラト）と結婚の日！　意外な事件が彼女の生涯に起る日だ。





偽りの花園

THE LITTLE FOXES

ゴールドウインとウイリアム・ワイラーが舞台劇からベテイ・デイヴイス、ハーバート・マーシヤル、テレサ・ライト、ジヨン・デユリエの配役を得て映画化した。権勢欲にとりつかれた女とその兄弟の醜い争いを主題に愛情と生きる方向を見つけた娘が、恋人と手をとつて出奔する。ベテイ・デイヴイスの役柄はすばらしく二十世紀初頭の南部資本家の生活を心にくいまでにさらけ出した傑作の一つである。

勇魂よ永遠に

ROCKY MOUNTAIN

南北戦争中におこつた一挿話をもとにしてエロール・フリン。パトリス・ワイモア夫婦が出演、ウイリアム・カイリイが監督する。八人の小人数からなる南部聯合軍偵察隊が、西部を南軍の手中に収めようとして、加州の無法者の首領と会見しようとしたが途中をインデアンに待伏せられ、あえない最後をとげる。一度彼らの手にとらえられ脱出を試みた北軍の中尉（スコット・フオービス）は記念碑を建て霊を祈つた。



今日限りの命

TODAY WE LIVE

ジヨーン・クロフオード、ゲイリイ・クーパー、フランチヨツト・トーンが顔合せする昔懐しい作品。「赤い河」のハワード・ホークス監督作品。（物語）英国旧家の娘ダイアナ（クロフオード）は父の欧州大戦出征後、邸宅を米国の有閑青年ボガード（クーパー）に貸すことにした。二人は父の死をきつかけに互いに恋し合う仲となつた。その中、弟ロニイ（トーン）に幼な馴染クロード（ロバート・ヤング）が出征し、ボガードには秘密でダイアナは看護婦として戦地に向つた。やがてボガードも出征、戦死の報が伝えられたが、ダイアナはクロードの妻となつた後、彼の生存を知る。







戦いの矢

WAR ARROW

テキサスに蜂起したキオワ族インデアンを平定するため、南部のセミノール族インデアンの少数を使用し、神出鬼没した騎兵少佐ハウエル・ヴレデイ（ジエフ・チヤンドラー）の話。ジヨージ・シヤーマン監督でモーリン・オハラ、スーザン・ボールが共演。（物語）キオワ族の蜂起に差し向けられたブラデイ少佐の案にクラーク砦のミード大佐は反対したがこの砦でブラデイとセミノール族の男たちに好意を見せたのは美しい未亡人エレイン（モーリン・オハラ）だけだつた。ある日ブラデイは白人の男と肉弾戦をした。男は逃げたが後にコーウイン大尉と名が入つたサーベルが落ちていた。コーウイン大尉は生きていて土地を失つたメキシコの有力者のためにキオワ族を蜂起させたのだつた。数日後、彼らの襲撃を返り討ちしたブラデイはエレインと馬首を東に向けた。（U—I）

銀幕を飾る話題作

ホンドー

HONDO

ジヨン・ウエインがメキシコ・ロケして作つた作品でアメリカで公開され人気を得ている。監督はジヨン・フアーローで、新人ジエラルデイン・ペイジが共演。アパツチ族の権力内に牧場を拓いたジエラルデンに、行きずりの西部男ホンドーは心を惹かれ、妻と子を残して去つた夫を探し出してやろうとする。その間にもアパツチの襲撃ははげしく、利己的な夫は死に、ホンドーはジエラルデインと結ばれる。（WB）





限りなき追跡

GUN FURY

西部に牧場を開拓した恋人ベン（ロツク・ハドスン）を追つて駅馬車の旅をするジエニフアー（ドナ・リード）は、テキサスからカリフオルニアに来る途中で、南軍の残党で今は駅馬車強盗になつているスレイトン（フイル・ケリー）の一味に襲われた。スレイトンはジエニフアーを凌つて行つたのでベンは独力ででも彼らの後を追つて行くことになつた。
スレイトンの方では彼女という荷物のため次々とゴタゴタが絶えなかつたその間にもベンは追跡の手をゆるめない。「遠い太鼓」のラオール・ウオーリツシユが監督（F・G・E・C）







浜尾組の金五郎は、石炭積込みの競走から大村組と乱闘騒ぎとなつた甲板の上に飛上つて、必死にこれを止めようとする。船腹に仕組まれた段々を飛上る藤田さんと森新之助の山形勲さんに演技をつける佐伯清監督。

東映の早春第一回の大作である「花と竜」は先月号でも第一報をお知らせしたように快調撮影。勇躍原作の土地である北九州若松に全スタッフ・キャストを集めてロケイションヽ北九州一帯の人気を集めて撮影を完了した。

どこに行つてもロケ隊の噂でもち切りの若松市内では連日数千のファンがロケ現場につめかけて、藤田進、山根寿子、島崎雪子、波島進さんなどを取囲んで大変な騒ぎ、高野山一帯の高台のロケが終ると、山をおりて市内各所をキヤメラにおさめ、次の日は胴海湾上の白根山丸を「パナマ丸」に仕立てて、積込み競走シーン、続いて甲板上の大乱闘を撮影するかと思うと、次の日は再び白山神社の長い石段を登つて傷き倒れた金五郎の全快を祈願する山根、島崎さんの姿をキヤメラに収めるなど、佐伯監督の猛スピード撮影ぶりだつた。

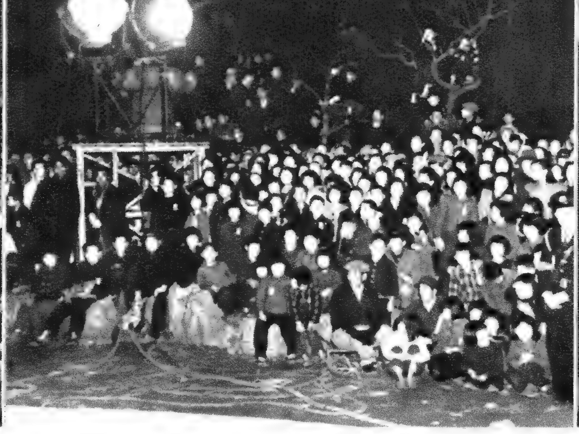
折から原作者の火野葦平さんもロケ隊に加わつて、有りし日の父親金五郎に扮する藤田さん、火野さん自身になる波島進さんなどと語る一方、何くれと助言をおこたらないし、火野さんの母堂玉井マンさんも元気一杯、ご自身が体験した苦難の日々を、山根さんの扮するマンの姿の中に思い出して、老い眼をしばたたくと云つた風景もあり、スタッフ一同は感激して連日早朝から、夜間ロケを敢行した。「パナマ丸」の撮影では、昔そのままの伝馬船が出動、本職の沖仲仕の面々が俳優さんにまざつて、なれぬ手つき足どりのにわか沖仲仕に何かと指導をするなど、若松市は挙げてロケ隊に協力していた。

一行は約半ケ月間のロケイションを終つて京都のオープン・セットで撮影後、久し振りに帰京、大泉スタジオでセット撮影に入つた。、佐伯監督始め藤田、山根さんなど、口をそろえて若松市の驚異的な歓迎と協力ぶりに感激していた。

すさまじい迫力で描かれる沖仲



火野葦平さんが玉井親分のジュニアなら、市の有志の各位も皆それぞれ当時の土地の親分達の第二世。これらの人々が集つて華やかな会食の宴が開かれ藤田、山根さんなど大もて……



公会堂の周囲は押寄せた老若男女のフアンで黒山の人だかり、市の警察が総動員で整理に当るなど大騒ぎ、深更に及ぶまで、口々にごひいきスタアの名を呼んでにぎやかな一日。



若松市内の公会堂では、同市の有志からエキストラをつのつて選挙演説会場の場面が快調クランク。この人々にまざつて、山根さんのマン、島崎さんのお葉が、藤田さんの演説に耳を傾けます。







数千のフアンに囲まれ にぎやかな九州ロケ

花と龍

東映東京作品



海上にキヤメラを運んで生々しい彼等の生活をとらえる為に、撮影部はキヤメラ・ワークに全能を働かせる。



藤田進さんの扮する玉井金五郎の妻マンには山根寿子さんが当るが、久し振りに汚れ役、顔に石炭の粉を浴びて、女沖仲仕として終日、胴海湾上の伝馬船の石炭の上で演技している。佐伯監督も大張切りで山根さんにアクションをつけて……

仕の生活



市内の時計店での撮影には原作者の火野葦平さんと母堂のマンさんが、藤田さん山根さんと昔しを偲んで思いでを語るなどの一幕があつて、取囲む見物の人々は一層熱心に見つめる。



高野山への長い石段で、決死の金五郎とそれを見送るマンのシーンが撮影される。キヤメラの前には佐伯清監督を中心に藤田、山根、波島さんなど顔を集めて相談。その後ろは熱心なフアンの山。



九州若松市第一の高台、高野山に登ると胴海湾から、対岸の戸畑、八幡、小倉などが一望に眼下にひろがる。ここの鐘撞堂で友田一派と対決する金五郎が思いをこめて鐘を撞くシーンを撮影。







高峰三枝子の寮母、それに阪妻二世の田村高広のデビューなどのキヤストで、快調撮影を進めた。京都郊外、加茂川上流の正倫女子大学が、標榜する人格主義による封建的教育の実践が、まき起す女子大生と学校側の対立を通して現代女性のいくつかのタイプを描こうとするこの作品に、ふさわしい華麗なキヤメラ・ワークが期待されている。

ロケは京都市内各所で行われ中でも四条通りを河原町交叉点から祇園まで、まばゆいばかりのライトを輝かせての夜間ロケは、空前の大掛りなもので、人気絶頂の四大スタアの出演とあつて、数千人の観衆を集めた。

その他、浅春の嵐山渡月橋、若寺、妙心寺、東福寺など観光京都の代表的なところは、くまなくキヤメラに収められている。

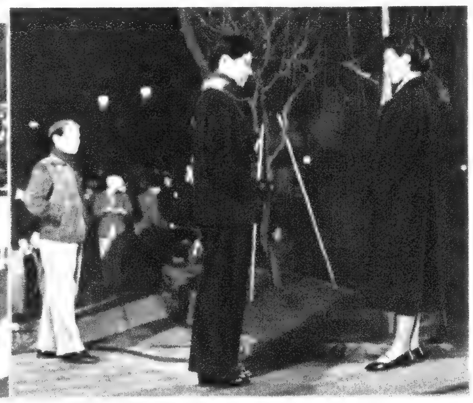
物語では高峰秀子は瀬戸物問屋の娘で、勉強のおくれている女子学生。東京の大学にいる恋人田村高広との恋愛に悩み、学友えの責任感から自殺するような女性であり、久我美子は学校の後援者の令嬢で、赤い思想のもち主と云われる女学生。岸恵子の富子はテニス選手の恋人田浦正己と恋愛遊戯、放校される女学生となつているなど興味ある役柄。（物語は本文）



東福寺境内のロケイシヨンでは、この物語の重要な主人公の一人、上級生で深窓の令嬢である久我美子さんが活躍する。木下恵介監督とは初顔合せである久我ちやんは緊張して木下監督の一言々々を聞いている。



新京極の映画街の早朝はひつそりとしている。それでも岸恵子さんが現われる頃は何時の間にか一杯の人だかり……



高瀬川のせせらぎに深夜のロケイシヨン、寒気が肌をさすような京都の夜ではあるが、岸恵子さんも田浦正己さんも元気一杯。

尾道・因島・大阪と各地にロケする春



赤貧のさ中を尾道に帰つたふみ子の本当の目的はここから船で渡る因の島の旧家の息子秋彦（船山汎）の本当の心を確かめたいからである。

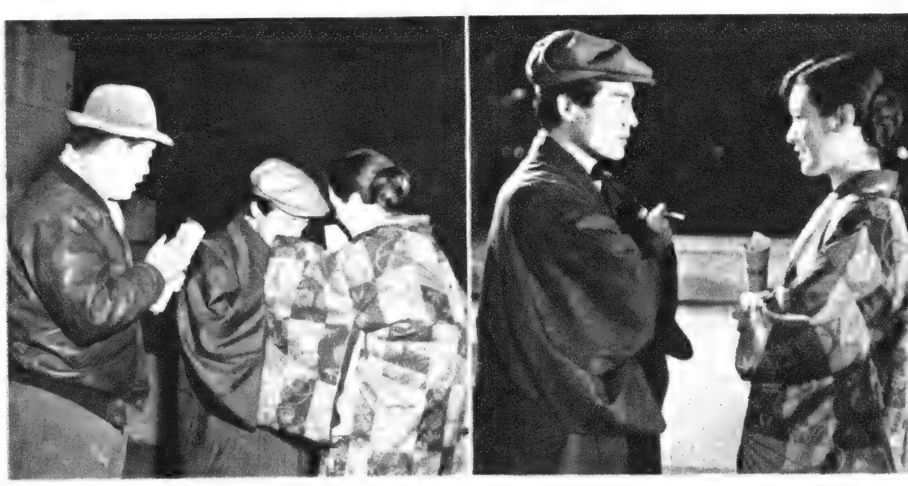
こうしてロケ隊は連絡船で二時間、瀬戸内海の美くしき島「因の島」に渡つて撮影を開始。角さんの好演で、ここも快調。続いて一行は夜行列車で大阪に入り、道頓堀の夜景に、ふみ子の第二の恋人文吾（岡田英次）とのなれそめの情景を昭和初年そのままに再現して深更に及んで撮影すると云つた強行振りであつた。

監督の久松静児さんや三上訓利プロデユーサーもこの一作に全力を注いでの活躍。角さんのいかにも放浪のひと林芙美子になりきつた演技と共に各方面の期待を集めているが、前記の出演者の他にふみ子の母に飯田蝶子、ふみ子が町辻の下着売りの露店に出る頃の同業者で、彼女に好意をよせる松田に伊藤雄之助。同じく仙吉に杉狂児。セルロイド工場の女工の頃の同僚千代に田代百合子、夫文吾を彼女からうばう有閑女優秋子に荒川さつき、アパートの隣室でこのふみ子に同情する画家に伊沢一郎、荒み切つたふみ子に力強い愛情の叱責を加える運転手に宇佐美諄がそれぞれ扮して活躍するもの。

文吾に裏切られたと知つたふみ子が泥酔のあげくにタクシーを拾つて文吾と秋子のもとに一度だけ無念を晴しにゆこうとするが、気がついた時は宇佐美諄のガレージに寝ていて、彼の大かつにふみ子の新しい晴々とした放浪の第一歩が踏み出され、「私の胸の中で子供達が赤い旗を振つている。もう私は何処へも行かない。泣かないぞ、しつかりしつかり旗を振つてくれ。貧乏な女王様のお帰りだ。」と力強く絶叫して、この映画は終るのである。



監督の久松静児さんの細かい演出で、角さんと岡田さんの淡い恋愛描写が、夜の冷たい空気の中で美くしく展開される。



大阪の道頓堀のカフエに勤めたふみ子が、新劇の俳優中島文吾に誘われて夜の堂島附近を散歩するシーンは深夜ロケ。







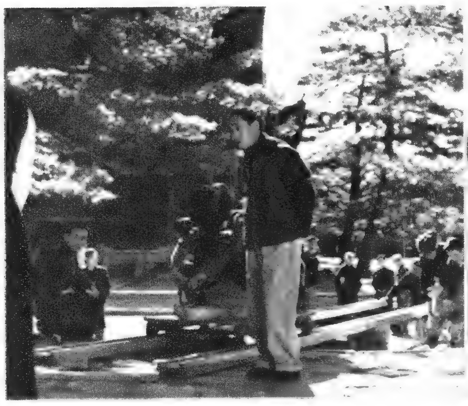
最高のキャストを揃えて
古都京都にロケイションの

●張切る木下恵介監督●

女の園

松竹大船作品

阿部知二が「群像」に連載した文芸作品〃人工庭園〃の映画化である「女の園」は木下恵介監督が「日本の悲劇」に続いて野心満々自から脚本を完成して、古きみやこ京都にロケイション、高峰秀子、久我美子、岸恵子の三人の女子学生と、



京都の妙心寺境内にキャメラをすえて古典的な美くしさの中に現代の女性を描こうと云う木下監督の野心的なまなざし。



京都市円町に参吉（田村高広）の家のロケ。阪東二世の高広君を指導する木下恵介監督と、参吉の母に扮する岡田和子さんなど。

の文芸大作

故林芙美子の自伝小説「放浪記」の野心的映画化は、本誌三月号でもその第一報を掲載したが、当初の計画にもとづき、原作に登場する放浪の全国各地を次々とロケイション、さながらロケ隊は「放浪記」そのままに関西各地をキャメラに収めて、この程漸くその大半を完成した。

まづロケ隊は広島県尾道にキャメラをすえて、東京から母のもとに帰つたふみ子の姿をとらえる。



快調クランクの

放浪記

東映東京作品





恋人船山さんは親の主張のまま、放浪のふみ子を裏切つて造船所の勤務。このロケは同じ因の島の日立造船所で行われる。



瀬戸内海の明眉な風光を一望出来る因の島の段々畑の小高い丘の上で初恋の人船山汎と別れる決心をした角さんの表情。







撮影快調の

岡田茉莉ちゃんが悩ましい芸妓に扮して

伊豆・修善寺にロケイションの……

東宝作品

芸者小夏



舟橋聖一の「芸者小夏」の映画化で東宝の杉江敏男監督の手でクランク・イン、〝富士のよく見える温泉町〟の可愛い芸者小夏に岡田茉莉ちやんが扮して、清新な花柳情話を展開するべく伊豆修善寺附近にロケイションした。

小夏の茉莉ちやんは嘗つての先生池部良を心から敬愛していたが、先生の方も教え子に対する愛情以上のものを小夏に抱いている。

その温泉宿に湯治に来た造船会社の社長は碁の相手の先生から小夏のことを聞いて、呼んでいるうちに東京に家を持たして世話をすることになつてしまう。それ以来先生の行方は不明となり、小夏は小夏で社長の妾宅で可愛い愛人としての生活をおくつているうち、幾許もなく社長は病を得て世を去り、再び元の温泉町に戻つて芸者に出ることになるが、小夏の胸に忘れ難いのは一夜東京の妾宅を訪れた先生のうらぶれた姿である。

こういつた物語を梅田晴夫が脚色、濃艶な愛情絵巻としてスクリーンに送られるもの。

茉莉ちやんはこの大作にうつてつけの大胆な名演技で、ファンの期待を集めているが完成は三月の予定。



見るからに小夏そのものの茉莉ちやんに演技をつける杉江監督。小春日和の伊豆の山々は煙つたように美しく、ロケ隊に微笑みかけています。



古風な情緒をただよわせる橋の上で自転車を引く久保先生の良ちやんと、可憐な芸妓姿の茉莉ちやんの情緒豊かなワンカット。



修善寺を流れる桂川にキヤメラを下ろして橋上の愛人同志池部良ちやんと茉莉ちやんの淡い恋模様をキヤメラに収めます。キヤメラ右が杉江監督。







二つの野心作

俳優座の自主作品で渋谷実監督活躍

ベスト・キャストを揃えて

俳優座作品

勲(くんしよう)章

「やつさもつさ」以来一年間の沈黙を破つた渋谷実監督が俳優座の第一回自主製作映画のメガホンをとつて立ち上り「羅生門」の橋本忍と内村直也、渋谷監督の共同脚本に依つて映画化する問題作がこれである。

再軍備の波にのつて、昔の栄光をとり戻そうとあがく元将軍(小沢栄)やそのとりまき(東野英治郎)などと、青春の苦悩と希望に生きる若人(香川京子、佐田啓二、岡田英次)を鋭く描くもので、渋谷監督の独壇場たる現代史の縮図とも云うものである。

物語は主人公の元陸軍中将小沢栄を中心に、都内各所にロケイシヨン、香川京子、佐田啓二、東恵美子の若きスタア連も、小沢、千田、東野、杉村、東山などの新劇人の芸達者に必死に食い下つての名演で、その成果が期待されている。

元中将の小沢は遂には総てを失い、我子の佐田啓二を射殺し、自からも高利貸杉村春子の手にうつつた故郷の山中にその生命を断つてしまうところでこの映画は終るが、「やつさもつさ」の流麗長岡博之のキヤメラも期待を集めている。





披露宴の日、アルバイトの落語を一席に及ぶ佐田さんのスナツプ。この一篇の中でもフアンにとつて見もの聞もののワンカツトと云うべきか……



渋谷の百軒店附近にロケイシヨン、折悪く曇天にたたられて喫茶店の片隅で、打合せに余念のない渋谷監督と小沢栄と杉村春子さんのスナツプ。



聯合映画のステージで火鉢を囲む佐田啓二と東恵美子のご両人、佐田さんは学生アルバイトの落語が縁で、東さんの若き燕と云う関係……



島崎雪子

「七人の侍」に出演決定!

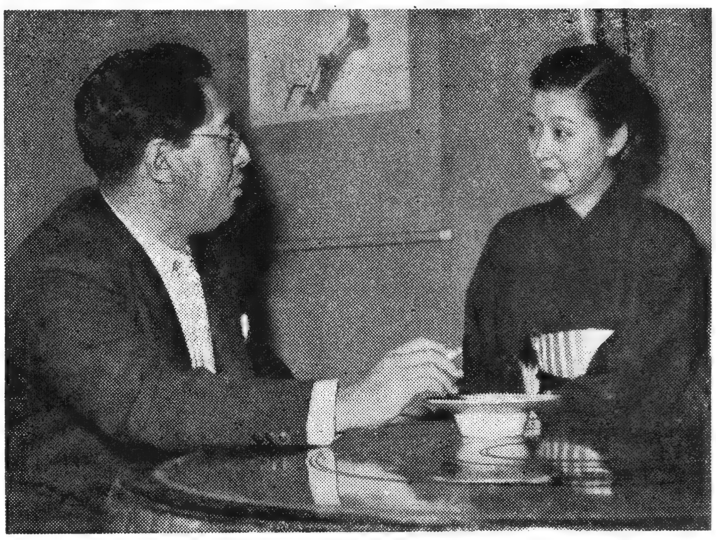
――未決定の利吉の女房で――

昨年の五月にクランクイン以来日本映画初めて以来の最高の日数を要して撮影を続けられて来た黒沢明監督の「七人の侍」は、九分通り撮影を終えることとなりましたが、クランクイン当初から問題となっていた利吉の女房の役が決まらず、野武士の人質として連れ去られ一年後恋しい夫に会つて発狂燃ゆる野武士の山塞に飛びこんで死ぬクライマックス・シーンの撮影だけが残されていましたが、漸くこの大役が、島崎雪子さんに決定、早速黒沢監督のもとで衣裳合せなどが行われ、即日撮影が始められました。

黒沢監督も「実のところ、島崎君に決定したのでほつと胸をなでおろしているところです。この利吉の女房の役は恐らく全篇を通じて一番印象に残る役でしようし、このシーンで「七人の侍」も完成するわけです」

とつつみ切れぬ、嬉しい微笑み。その口許には、まア完成した作品を見て下さい……と云つた自信の程が満々でした。

島崎さんは、黒沢監督との始めての舞台です。「黒沢先生の作品に出演したい、と云うのは以前からの念願。それがかなつてなにより幸せだと思いますわ。これを機会に私の仕事の上での行き詰り……つて云うのかしら、そうした意味の壁をつき破りたいと考えているんです。黒沢先生にきびしくたたいて頂きたいの……」と語つていました。



津島恵子「足摺岬」で

七年振りに吉村監督と

吉村公三郎監督以下の近代映画協会が「**原爆の子**」以来の自主製作映画として**田宮虎彦**原作の「**足摺岬**」の映画化が決定しました。

これは日支事変の前夜、昭和九年頃の弾圧時代に生きる貧しい若人たちの姿を描いた田宮虎彦の自伝小説とも云うべき初期の作品「**綸本**」「**菊坂**」「**足摺岬**」の三短篇を**新藤兼人**が一本の脚本にまとめ、苦学生活につかれはて、死を秘めて、南国のはて足摺岬まで来て土地の素朴な人々の愛情によつて再び生きる力を見出す青年の姿を描いたもので、現代の若き世代にそのまま共通するものと云える作品となるでしよう。

吉村監督が多年の宿願であつたこの企画に、集まるスタアは主演の浅井青年に**木村功**さん、ヒロイン八重に**津島恵子**さん、他に**日高澄子**、**原保美**、**殿山泰司**、**菅井一郎**、**信欣三**、**神田隆**さんなどの芸達者の面々ですが、ヒロインの直ちゃんこと津島恵子さんは名作「**安城家の舞踏會**」で吉村公三郎監督に始めてスクリーに登場させてもらい、**倉成直子**から津島恵子の誕生の生みの親。

以来七年間、このご両人は共に仕事をする機会は全くなく、今度この「足摺岬」で七年振りに顔を合せて、お二人とも感激的な再会のワン・カットを見せてくれました。

吉村監督は「七年間の彼女の成長をまのあたりに見ることの出来るのは楽しみです」と語りながら「今までドラマチックなものばかり手がけて来た僕が、こんな地味な作品を企画したことは意外だとする人もあるようだがね、僕はこの映画を一人でも好んでくれる人があれば、それでいいと思つているんだよ」

と野心の程をほのめかして、クランクインしました。完成は四月上旬の予定だそうです。

われらの人氣者エノケンさんの

全快を祝つて





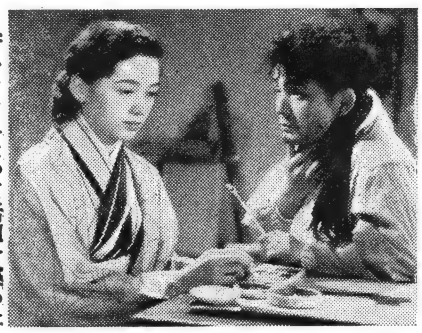
長い間の闘病生活に終止符をうつて、我等の人気ものエノケンさんが、松葉杖をかりずに一人立ち出来ることとなり、その全快を祝うパーティーが二月三日節分の夜、東京会館で開かれた折から多年の彼の先輩同僚後輩などに当る喜劇陣のオールスタアが現われて、こもごもエノケンさんを祝福した。この空前の豪華なキャストは**越路吹雪**、**ロッパ**、**笠置しづ子**、**アチヤコ**、**トニー谷**、**伴淳**、**清川虹子**、**堺駿二**、**藤原鎌足**、**ターキー**、**森繁久彌**、**丹下キヨ子**、**木戸新**、**灰田勝彦**、**坊屋三郎**、**川田晴久**、**松井翠聲**、**三國連太郎**、**濱田百合子**、**デツク・ミネ**、**岸井明**、**三益愛子**、**若山セツ子**などに加えて**森岩雄**東宝製作本部長、**菊田一夫**、**川口松太郎**の諸氏も来席して大変なにぎやかさ。

エノケンさんは再起第一作の「**落語シリーズ**」に生れ変つたつもりで活躍すると嬉しさに眼をしばたいて語つていた。



洋子ちゃん

元氣でスタヂオ



若いママになつて話題を集めた作曲家――黛敏郎夫人の**桂木洋子**ちゃんが元気な姿を大船撮影所に現わして、文豪**山本有三**の名作「**眞実一路**」の再映画化に出演、久し振りに銀幕で皆さんにお目にかかります。

ご存知のこの作品では洋子ちゃんは**淡島千景**さんの扮するむつ子の娘しず子で、義父の**山村聰**さんの暖い愛情のもとで成長しますが母のむつ子は愛人のもとに走り、彼女は彼女の真実一路の道をゆくのです。可憐そのものの洋ちゃんの美くしさはまた一汐です。

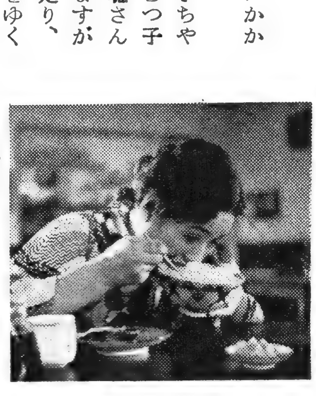
「五ツ木の子守唄」に

南田洋子さん

全国に大流行の九州熊本の民謡「**五ツ木の子守唄**」をとりあげた大映東京撮影所では**笠原良三**の脚本で哀切甘美なストリーのもとに映画化を決定、**南田洋子**ちゃんが主演、**船越英二**、**伏見和子**、**松島トモ子**さんなどが共演します。

如何ですか

角さんの大食?



右の写真は大盛のドンブリ飯をぱくつく銀幕の女王**角梨枝子**さんの珍らしいスナップ。

これは「**放浪記**」で赤貧の早瀬ふみ子に扮する角さんが、一膳飯やで、日傭労働者達と肩をならべて、なけなしの銭をはたいて久し振りにありつくご馳走のシーン。どうです。みごとな名演技だとは思いませんか。

貞ちゃん

權八で活躍



好漢**高橋貞二**さんが認められた最初のきつかけと云えば一昨年の「**大江戸五人男**」のアプレ権八が眼にうかんで来ます。

この当り役権八に再び扮して大暴れしようと云うのが今度松竹京都スタヂオでクランク・インした「**濡れ髪權八**」です。

土師清二が内外タイムスに連載した原作から**大曾根辰夫**監督が映画化。歪められた徳川時代の社会環境の中で成長した美くしい一輪の花権八の辿る果ない受難の抒情詩と云うべきもので、**北上彌太郎**、**島崎雪子**、**嵯峨美智子**さんなどが共演しています。

貞ちゃんは宿願がなつた権八として、その張切り方も一通りではありません。ご期待下さい。



お菊と播磨（大映京都作品）

一枚割れば命がなくなる家宝の絵皿。岡本綺堂の「番町皿屋敷」から脚色して、伊藤大輔監督が、若い男女の甘いラヴ・ロマンスとして演出した。長谷川一夫、津島恵子の初顔合せがたのしみ。

真実一路（松竹大船作品）

山本有三の代表作。人それぞれが生き方の相違から味わされる悲喜劇の中に己の真実に生きる女の母性愛と愛人への情愛を描いたもので、淡島千景、桂木洋子、山村聡主演。川島雄三が監督。





秩父水滸伝（東映東京作品）

新聞小説で有名な村松梢風の小説映画化で幕末の秩父を背景に高野佐三郎（河津清三郎）の波乱ある青春を描く。田代百合子共演で小石栄一監督。



濡れ髪権八（松竹京都作品）

「大江戸五人男」でマゲ物で登場して人気を博した高橋貞二が再び水もしたたる男つぶりをみせる。嵯峨美智子、島崎雪子共演の大曾根辰夫監督。



坊ちゃん社員（東宝作品）

サラリーマンものの小林桂樹が田舎町に登場、芸者藤間紫、女給関千恵子、会社の純情娘河内桃子の三人にもみくちやにされる山本嘉次郎監督。



四人の母（大映東京作品）

生みの母（折原啓子）義理の母（三宅邦子）乳母としての心の母（浦辺粂子）育ての母（三益愛子）の四人の母の情を描く佐伯幸三演出の母物語。



若き日の誘惑（松竹京都作品）

学窓を巣立つたばかりの思春期娘（藤乃高子）が辿る感傷と愛欲の青春譜。大木実、大阪志郎、北原三枝が出演、新進酒井辰雄が監督に当つた。



君ゆえに（新東宝作品）

ラグビー選手、アルバイトをしながら人間として立つ青年（中山昭二）たちのメロドラマ。舟橋元、和田孝、安西郷子出演で野村浩将監督。



水戸黄門漫遊記（東映京都作品）

天下の副将軍水戸光圀の民情視察。ユーモアと皮肉の物語には月形龍之助、大友柳太朗、加賀邦男、千原しのぶ、共演、三部作を伊賀山正徳演出。



最後の女達（創映プロ作品）

サイパンの生存者篠塚吉太郎の原作をもとに戦争がいかに人間を悪魔におきかえて行つたかを描く。河野秋武、利根はる恵出演、楠田清演出。



恋愛パトロール（松竹大船作品）

庶民と共に生きる青年警官（川喜多雄二、三橋達也）の美しい友情と微笑ましき恋愛。小林トシ子、草笛光子共演で堀内真直が演出する。



ファーリイ・グレンジャーと問題の秘書ウルフ嬢

ドの蒐集に凝っています。
「わたくしはね、やっぱり妻は妻だと思います。子供が出来ればできるだけ沢山ほしいし、今でこそ私たち子供みたいですけど、今にジョルデイは仕事を指図しなければならなくなるし、レコードの方でも何か発明をしてくれると思います」
夫を思う妻の心や切、さすがフランス人はちがうと、あるレスリイ・ファンの中年の婦人は感心して、ファン・レターなるものを書きました。いわく
——愛しいレスリイさん、わたしはあなたの女性らしい心掛けに感心しました。その昔は私も婦権論者の一人として大いに活躍したものですが、もう選挙権はあるし離婚も自由になりましたし、することがなくなりました。いま、こうして家庭の主婦として静かな余生をおくってますが、一本、何万弗という大金を稼ぐあなたにとって、主婦の道の心掛けは大したものです。で、おひまなときにはあなたの日常をおしらせ下さい。
レスリイからすぐ返事が来ました。大抵のスタアのようにサインまで印刷物になったのと違い、タイプライターで打ったあとも生々しい肉筆です。
——愛しいコリタ夫人、簡単ながら私の日常をおしらせします。目下、私たちは夫婦ですが、社会的にはジョルデイはまだ未成年と同じです。家督を相続するときがくるまで二人は決して老け込まないことを約束しました。今週の遊戯は、コヨリで相手をくすぐり合う遊びをしています。
なんと変ったファンがいれば、変ったスタアからの返事ではありませんか。うち見たところ、レスリイはあわてて手紙を出して、夫人のあやまった夫婦の道とやらに抗議しようとしたらしいのです。

ウルフ側にあり



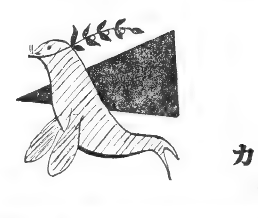
ファーリイの私設秘書

ファーリイ・グレインジャーは一体どうしているのでしょう。**シェリイ・ウインタース**と別れたあとの彼は、どこかへ消えたみたいに静かです。
ファーリイは去年の夏、ワーナーのセットにいました。その日、グレイの高級車が音もせずに入って来て一人の若い女性を**ジャック・ワーナー**(ワーナーの製作主任)の部屋へ案内しました。ちぢれた金髪は間違いなく天然のもので、短かく**エリザベス・テイラー**風にプードルカットにしています。元気潑剌たるこのご婦人は、やがてワーナーに伴なわれてファーリイのセットにやって来ました。
——マリナ・シコナ＝モッソオニ女伯爵」
ワーナーはこういって、いかめしい称号に似合わず子供っぽい趣味の十九才の少女をファーリイに紹介しました。彼がつい、アメリカ風ににっこり笑うと、カウンテス・マリナも片頬にえくぼを作って挨拶しました。
翌八月、ファーリイはヨーロッパに渡りました。ヴェニスから早速マリナのメッセージがとどき、**エロール・フリン**、**オースン・ウエルズ**などと共にパーティを開きたいからといって来ました。ファーリイとマリナはすっかり打解けて、ファーリイがロケで一日の仕事が終ると、マリナが無料で貸してくれた自動車にのって、ベニス運河に浮かんだ彼女の船にのりつけるまでになりました。
ファーリイとマリナの豪遊は続きます。マリナの称号は貧乏伯爵だけを意味するヨーロッパの貴族趣味とちがって、ベニス、パリ、ローマ、イタリア、北アフリカの各地に邸宅や別荘を持っている、アメリカのロックフェラー一家にも比べられる大富豪の名誉ある称号なのです。
ハリウッドの連中は、ファーリイがすっかりマリナに参ってしまったと思いました。**ドーン・アダムス**と噂されたのもニューヨークまで、その先は完全にマリナが奪いとった感がありました。
けれども、映画情報では、東京にいてもファーリイの行動に片時も眼をはなしません。彼がニューヨークでとらせた一枚のスナップ・ショットが鋭いわれわれのカンを働かせたのです。そして、ファーリイの後をつけて歩いた外人記者も、やっぱりわれわれと同じことを感じないわけには行かなかったのです。
ほれ、このご婦人です。名前は**ジャネット**、姓は**ウルフ**(狼と同じ発音ですが、敬意を表してか、WOLFの後にEがついています)
彼女はファーリイの後をそれこそロケからマリナと逢引きの時も、狼そのままにつけて歩きました。なぜって、彼女はファーリイの私設秘書なのです。年よりふけて見えるのは張った頬骨のせいでしょうか。モンロウ式に下からあおぐように撮ると、エリザベス・テイラーとドーン・アダムスをまぜたような顔、つまり彼女も相当の美人だということになります。
「僕は浮気ものでもなんでもない時期がくれば大丈夫ゲット・マリイド(結婚)するよ」
といっていたファーリイです。なるほど、ウルフがいつも側にいたのでは、あくせくする必要はなかったわけです。



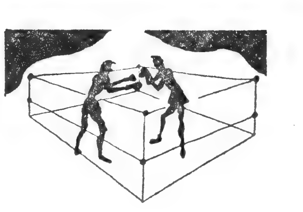
「ユリシース」の撮影場景左監督のカメリニとカーク

ユリシスの一日



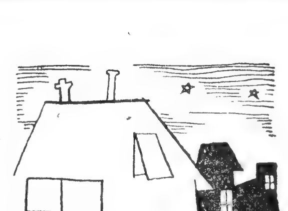
カークの飛込み出動

ヨーロッパではいま、世にも奇妙なロケが行われています。**カーク・ダグラス**が主演する、イタリア映画とまあ仮にいいましょうか〝**ユリシス**〟がそれです。
地中海に面した明るい漁港ラモネハッドの人々はこんなスリルを味ったことはありません。毎朝六時になると、人々はあらそって海岸へかけつけ、岸壁も狭しと鈴なりになって待っています。正七時、やって来ました。カークは決して時間を間違えません。一台の自動車が止ると、カークはグラマア・ボーイにふさわしくない、ひげもじゃの顔で見事な肉体をパンツ一つにかくしてドックに立ちます。見物が固唾を呑む一瞬、ザブン。これはカークが生温い紺碧の地中海にとび込む音です。やがて泳者は抜手をきって海上に浮かんだ世にも不思議な船にたどりつきます「スタア到着」
カンカンカンと三つの鐘が鳴ってロケ隊一同は仕事にかかるのです。



★拳闘選手★

★拳闘選手と云えば、リングの上で殴りあいをする腕力の持主と思ったら大間違い。仲々、大男総身にチエが廻っていて、拳闘選手廃業後の転身はあざやかなものがある。早い話が、新東宝配給になるインディアナポリスのスピードウェイを駆け巡る「大車輪」——自動車競争物である。製作はサミュエル・H・ステイフェルなる御仁だが、彼に協力したのが「井戸」のハリイ・M・ホプキンスに往年の拳闘王ジャック・デンプシイとある。先頃のボッブ・ホープ喜劇「腰抜けM・P」には、レフェリーで一役買っているかと思えば、映画のプロデューサー業もやるという器用人。
★デンプシイは、球界に於けるベーブ・ルースみたいに、銀幕とも御縁が深い。嘗て、エステル・テイラーと結婚艶名を謳われ、モンロウ・ディマジオ的な話題をまいたこともあり、映画は「世界拳闘王」「大都会」等が戦前にある。
★この「世界拳闘王」は、カルネラに挑戦したマックス・ベアが、その試合寸前に主演したMGMの超際物超大作。然も最後のヤマ場は、カルネラとの拳闘シーンである。デンプシイはこの時レフェリーで出演。映画は引分けだが、本物の試合ではベアが勝ってチャンピオンになった独乙のマックス・シュメリングは、トーキー初期、ウーファで「拳闘王」という劇映画に主演している。
★マックス・ベアは、その後、助演俳優稼業に転じ「硝煙のカンサス」「花嫁売ります」「恋は青空の下で」「凸凹猛獣狩」(この時、弟のバテイも出演)今では、弟の方が「クオ・ヴァディス」「限りなき蒼空」「ジャバへの順風」と引張り凧である。
★日本でもピストン・堀口が「拳闘王」などに出演したことがある。



★オートバイ★

★自動車は厭というほど画面にでてくるが、このオートバイは案外でてこないものである。オートバイに乗って現れるのは、警官と相場が決っていた。ところが、この逆をゆく映画が登場してきた。即ち、曲者プロデューサー、スタンリイ・クレイマァ作る「乱暴者」である。何しろ、全巻、オートバイが唸りをあげて狂乱乱舞する。乗り手はオート・レーサーくずれの荒くれ男。黒衣の皮ジャンパー・スタイルで〝アントニオ〟マーロン・ブランドが、相変らず不敵な面魂をみせている。米国の或る田舎町に、レーサーの一団が乗り込んで乱暴を働くという風変りなお話もさることながら、これ程、オートバイのでた映画もない。オートバイは「トライアンフ」を使っている。
★瑞典版「春の調べ」とも云うべき「春の悶え」は、青年の愛用するオートバイが、最後に悲劇の因をなすといった具合に使われているし、独乙を背景にした「赤い唇」では、殺人の道具に、オート・レースが演ぜられていた。独乙と云えば、ナチが使っていた円筒形のサイド・カーは「暁前の決断」「平和に生きる」他、等々にその不気味な姿を現わしている。
★威勢のいいのは街道警備のオートバイ警官。戦前のアメリカ映画で、これを扱ったのが「街道巡羅隊」「快適突破隊」(故ジャック・ホルト主演)——後者は、火炎抜けのオートバイ・サーカス芸人に身をおとした警官の手柄話。当時よくオートバイ警官の役を演っていたワード・ボンドも、この活劇に顔をみせていた。
★日本では、今、九州で館主をやっているハヤブサ・ヒデト。参議院の落選を続ける鈴木伝明などがハンドル握って、銀幕にヒーローぶりを発揮したのも、今や昔噺。



ハリウッド告知版

海の向うのお噂を早速そのまゝお傳えする頁です

理想の男性とは



パイパアの男性批判

赤毛（キャロット・ヘッド）のご婦人というものは元来気性のはげしい旗頭にまつりあげられていて、例えば日本でいえば、五黄の虎の女房のようなもの、とくに今年のような午年のご亭主だと、始終尻をひつぱたかれて夢中になつて走つていなければなりません。

パイパア・ローリイは今年の正月で満二十二歳になりましたから十二支でいえば何になりますか、とに角、力こそ弱くあれ気性は悍馬のごとく、口から出る言葉もチクリと刺すことしばしば。

「聖林（ハリウッド）ぢゆう探したつて私の気に入る男性なんていないわ。みんなどこかしらいいけど他の点で落第なの。わたしの理想の男性（アイデアル・マン）が出てきたら、カケてもいいわ、その場で結婚するつもり」


ロツク・ハドスン


L・ゴールドスタイン


フアーリイ・グレンジヤー


ブロツド・ジヤクスン


トニイ・カーテイス


ビクタア・マチユア

噂によると、パイパアは今までのボーイ・フレンドに次のような採点をしているそうです。

髪と眉毛……**フアーリイ・グレインジヤー**（彼は漆黒のやわらかいウエーヴのある髪と男性にしてはやや細目の、だがデリケートな感覚の持主らしい濃い眉毛を持つています）

瞳……**レオナルド・ゴールドスタイン**（つい最近までもパイパアのよき指導者であり発見者でもある四十九歳の製作者。一見蛇のように見える鋭い視線も、やがては理解力と慈父のような温かさを宿していることが分ります）

頭からくび筋にかけての異性的魅力……**ヴイクタア・マチユア**（ご存知のとうり、鋼の意志と肉体の点でマチユアに必敵するものはありますまい）

鼻と頬……**ロツク・ハドスン**（ここの形一つで「チクノウだわ」といわれたり「悲劇ねどこが鼻でどこが頬か分らないじやないの」など蔭口をたたかれます。ロック・ハドスンはパイパアと噂されたやはり最近組の一人。ギリシヤ彫刻のような造形の美を感じさせる高く形よい鼻と若人らしい引締つた頬。頬骨のとんがつたのなんか先ず落第です）

耳……**トニイ・カーテイス**（「盗賊王子」で共演、一時不仲をつたえられた二人ですが、相手の耳の形まで記憶しているとは流石。卵型で小さくも大きくもなし、横顔（プロフイール）をとりたくなるような顔は大抵美しい耳を持つています）

唇……**ブラツド・ジヤクスン**（新しく契約したユニバーサルの男優だそうで、パイパアは彼とピクニックに行つたりしました。写真では、フアリイ・グレンジヤー、トニイ・カーテイスをまぜて、あごのあたりをもつと鍛えあげたような顔をしています。彼の唇は空想と行動力の二つを兼備しているそうです）

パリジエンヌ氣質

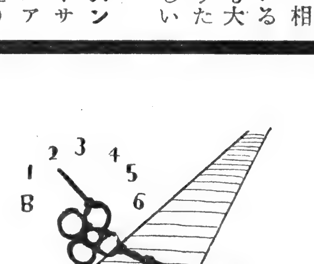


レスリイの幸福な結婚

ハリウッドに行つて「**パリのアメリカ人**」でセンセイションを捲きおこしたかと思つたら、もう、大包装会社（パッキング・カンパニイ）を持つ**ホーメルズ**のジユニアと結婚して超スピード時代をおもわせた**レスリイ・キヤロン**実はほんとのパリジエンヌらしく考えも固く、初めて聞く人はびつくりします。


レスリイ・キヤロン

ホーメルズは、あと二、三年で相当の財産が得られる身、今は時々レスリイに借りたりしてレコー



★エレヴエータア★

★日本映画では、どうも、エレヴエータアをうまく使つた映画がない。高層ビルが筍のようにニヨキニヨキ建つ昨今、景気のよいエレヴエータア会社とタイアップでもして、うまく使いこなしてみせて貰いたいもンである。

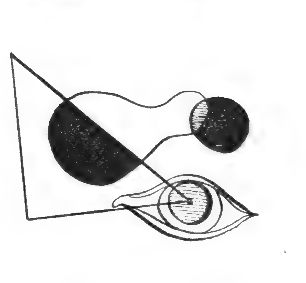
★あちらさんは、このエレヴエータアが、都会映画なら一度は画面に出てくる程よく使われている。ブロードウエイの当り狂言を映画化したという「月蒼くして」にしてもウイリアム・ホールデンがふと気を惹れた娘と彼の婚約者をエレヴエータア一つで気のきいた紹介をみせている。

★だいたい、喜劇には、笑いを生む機械の如く昔から重要視されている。チヤップリンの一巻物時代に、デパートを舞台にしたのがあつたが、これなど、一巻の殆どはエレヴエータアを使つたお笑いであつたのを憶えている。これの近代版は、マルクス三兄弟の「デパート騒動」というところ。

★ギヤング映画の追いかけなどにも、このエレヴエータアはサスペンスを生む要素としてよく使われるが、このエレヴエータアが探偵映画や猟奇物には、人殺しの道具にも使われてくる。戦後では、ユニヴアーサルの「タンジールの踊り子」あり、色つき立体映画「肉の蠟人形」では、死人をぶらさげてみせる。

★なかには、機械力によらざるエレヴエータアも現れる。即ち、MR・ターザンの木の上の愛の巣へ通ずるエレヴエータアは象の力によつている。

★ドロシイ・ラムーアはエレヴエータアが大好き、ジユーン・アリスンは大嫌いなことで有名である。ドッテイは自ら操作しないと気が済まない位。実を申すと彼女シカゴのさるデパートで、エレヴエータア・ガールをしていた。



★目　玉★

★目玉――と云つても「第十七虜収容所」で、ウイリアム・ホールデンが焼いてみせる目玉焼（フライド・エッグ）のことではない。目玉、即ち、マナコのことである。目千両という位だから、ハリウッドの千両役者にも〃目玉〃をトレイドマーク（商標）にしている御仁がいる。

★先づ、近くウォーナー・Bが放つ「我れ暁に死す」というギャング映画と刑務所映画を掛算したようなジエイムス・ギヤグニイ物に彼と共演しているのがジョージ・ラフトである。戦後のファンに「大雷雨」「モロッコ城塞」「赤い灯」などのラフトから、いなせなあにい、或いは鉄火なやくざを御想像願おうと云つても無理な話だが、彼も、昔はギャングスタア役者で鳴したもので、その片鱗が「我れ暁に死す」の開巻で味わえる。さて、ラフトのあの目玉を指して、あちらでは〃スネーク・アイ〃（蛇の目）と云つている。別に、こちらのミシンとは関係はない。

★戦後麻薬患者として、ハリウッドを騒然とさせたロバート・ミッチヤムは、あのもの憂げな目を〃スリーピング・アイ〃（眠むたげな眼）と呼ばれて、人気がでたという評判。あのトロリンコとしたとこが堪らない御婦人方がいるらしい。

★目玉の大きいのを売物にしたのは、エデイカンター（ハリウッド玉手箱）とジョーン・クロフォード（突然の恐怖）だが、こちらの〃目玉の松ちやん〃尾上松之助にはかなわない。古いところでは〃藪にらみ〃の珍優ベン・タービンあり、人造的に半白や盲を得意とした俳優に先代ロン・チャニイがいる。ワをかいて目玉の部分にしちまつたのは「アノネ」の故高勢実乗オッサンである。



HOLLYWOOD TRUE STORY

RICHARD WIDMARK MAN OF LONE SPIRIT

by FUYUKO HAYASHI

學生肌のウイドマークのプロフイール

孤独なときが本当の僕だ

眞夜中の散歩者

どこからともなく甘い野花の残香がただよつていた。四季を知らないロサンゼルスの九月は、この地上の楽園のなかでも特にいい。深く吸い込まれそうな大気の海に、一つぽつかり浮んだ帆船のような白い雲のかたまりから、輝く鏡のような月が静かに、姿を現わしはじめた。

デイックが細く明け放されたドアからポーチに出ると、花の香はムッと迫るほどの強さで彼をつつんだ。昼間、アンが遊んだボールが一つ、拾い忘れられたまま彼の足許にころがつている。デイックはあたりを見廻して、太陽が去つた後の、わが家の変化に驚いた。何もかもが先程のまま、位置を変えずに立つている。芝生の向うの白い低い柵、クライミング・ローズを這わせた、やはり白塗りの小さなアーチ、しかし、あんなにも幸福で、親しみ深かつたものが、今はしんとした静寂の中にひつそりとちぢこまつて、身動き一つしようとしない。

急に思い出して、薄いセーターをシャツの上にひつかけると、デイックは今度はポーチから庭の方を見ようともせずに歩き出した。彼は真夜中の散歩が好きだ。特に今夜のように月の美しい夜は。

デイック・ウイドマークは無口な男だつた。もつともこれはずつと昔からで、学生時代には、友達は彼のことを〝無口(サイレント)な〟デイックとあだ名をつけた。仕事が忙しいなら忙しいで、朝の食事をきちんと食べると、さつさと撮影所に行くし、定刻に帰ると、シャワーを浴び、黙々と夕食を食べるとそのまま自分の部屋にひつこんでしまう。そこで、翌日のシーンの下読みもすれば、新しく附け加えられた科白の暗誦もするのだろう。

「たまには何か話してくれたらどう、デイック」

ジーンは時々そういいかけては口をつぐむのが常だつた。ちつとも変つていない。十年前にジーンがカレッヂの新入生で、〝サイレント〟デイックが一年上だつたときと、今の彼とはちつとも変つていない。だけど、無口で仕事の虫みたいなのが、あのひとのすべてではない。彼女の考えは、そこまでくると何時も、学生時代のちよつとした想い出の一つを想い出してはくすりと笑う。また、この笑いが、何か冷たい飲物を持つて寝室に入つて行くと、読書三昧の筈の夫が、明るい金髪がさらつと顔に落ちたのも気にせずに、習慣の横むきに寝入つている姿を見たときにも、ちつとも欺されたような気をおこさせないのである。

しかし、仕事のないときは又別である。デイックは、ジーンのいう〝マチネ・タイム〟を励行する。夜寝るのもおそい代りに、朝起きるのも、世間の夫が一日の仕事の半分を終えた頃でないとおきない。

「ダデイ、もう起きないと日が暮れちやうわよ」

一人娘のアンは、こういうとき、デイックの一番の強敵である。邪険にも娘は足の方から父親のふとんをはいでしまう。

「O・K、O・K、今おきるよ」

そういうときも、デイックは自分ではおきなければならない義務はない、と考えている。ただ、アンが、朝八時から今か今かと父親のおきるのを待つて、一緒に約束したローラー・スケートをやろうと待構えていさえしなければ。彼は読書が好きだ。出来れば一生、ベットの中でダレながら本を読みたいと思つているくらいである。朝、世間では牛乳屋(ミルク・マン)くらいしか働いていない時刻に、ヘッド・ライトを照らしながら撮影所入りをしなければならないときなどに限つて、こういう気持が猛然と湧いてくる。しかも、折角の休暇(デイ・オフ)には、家にアンが債鬼のように迫つてくる。

このところ、真夜中(ミッド・ナイト)の月はずつと冴えている。白い柵を無造作にまたいで、しつとり露にぬれた空気の中を、石畳にそいながら五分ばかり散歩すると、デイックはそつと寝室に戻つた。ジーンが気がついたか、軽く寝がえりをうつている。その伸ばされた腕をすくうように両手で持つて、彼は滑るようにやわらかい床(ベッド)にもぐり込んだ。



〝情無用の街〟で始めて日本にお目見得のワン・シーン



彼の最初のヒット作〝死の接吻〟



〝拾つた女〟でピータースと

金髪のプロム・キング

デイック・ウイドマークの生涯は、州の三分の二がトウモロコシを産する耕地とアメリカ屈指の工業地帯で、ふくよかな泥土の下には無尽の鉄を蔵しているメサビ地方からなる湖水の州、ミネソタに始まつた。開拓時代からの歴史では、この州にはフランス人、アイルランド人、所謂ヤンキー、北欧人の血が入り乱れている。それだけに州の人はみな生活力が旺盛であつた。世に〝テキサス人のほら吹き〟といわれるくらいに、その中でもウイドマークの父親は活潑で、時には無邪気な大口をきくことがあつた。彼の父親は、だから親類にいわせると、ほら吹き親爺であつたらしい。

一九一五年のミネソタをデイックは想い出すことは出来ない。だが、それから四、五年たつた頃、デイックは雨がふるとぬかるみになる塀ぎわの露地で、近所の腕白小僧の一員に加わつていた自分をうつすら覚えている。彼が伯父に初めて

活躍する青春スタア



"女の園でデビュー"「田村高広」

昨年急逝した巨星**阪東妻三郎**の長男**田村高広**君の映画入りは早くから話題を集めていましたが「**破れ太鼓**」を演出した**木下恵介**監督が高広君の身柄をあづかつて数ヶ月、俳優への勉強を続けて来た同君はグラビア頁でもお知らせしたように**阿部知二**原作「**女の園**」でデヴュー、高峰デコちやんの恋人下田参吉として、始めてスクリーンに登場することとなりました。

撮影第一日の都内ロケは参吉の下宿のシーン。ここでデコちやんとラヴシーンを展開する彼は、木下監督の入念の指導と、スタッフ達の温い雰囲気で、もの怖じない快調な演技振り。

「まだ、何も解りません。木下先生のお言葉に従つて精一杯頑張りたいと思つています」

と語る彼の面には、往年の阪妻の風貌がその片鱗を見せている。

当年廿五才、五尺七寸、十七貫の美丈夫。テニスを愛好するスポーツマンである一方、キヤメラを片時もはなさないと云う趣味の豊かさを持つていて、酒は大好物。「親ゆづりですね」とはご当人の弁です。

日本の**モンゴメリイ・クリフト**たらんとする意気はまさに壮と云うべきでしょうか……



SKDから「美雪節子」

SKD出身の若手スタア達が大活躍している折から、亦もう一人の新星がデヴューしました。

野村浩将督督の「**君ゆえに**」に**中山昭二**さんの故郷の恋人で、小さい時から足の悪い可憐な少女になるのがその人、**美雪節子**さん。

東京浅草に生れた生粋の下町ッ娘で五人姉妹の真中に生れてSKDの舞台では「**日劇五人娘**」に選ばれる程の活躍でしたが、映画への情熱止みがたく、今度新東宝入りしたと云うわけ。

映画入りの感想を。

「嬉しくてもう夢中なんです。今度の〝君ゆえに〟は始めての上に生れながらの不具者で、松葉杖のさばき方なんか、とても苦心しています。将来ですか？　もちろん女優としてうまくなりたいと思つていますが、特に時代劇に出演したいと思つています。姫君よりも粋な役がいいなア」

と淑やかな表情の中に、仲々利かぬ気の性格をちよつぴり。



話題を集めて「伊東絹子」

ミス・ユニバースで世界第三位の美人として世界の檜舞台で名を挙げたファッション・モデルの**伊東絹子**さんの映画入りは早くから注目を集めていましたが、この程東宝と契約、その第一回出演映画は**菊田一夫**原作、**梅田晴夫**、**市川崑**の共同脚色になる「**わたしの凡てを**」に決定、華やかな時代の脚光を浴びたファッション・モデルの秘められた心の葛藤を描くもので、伊東さんはその主人公、尊敬し愛する二人の男性にはさまれて苦悶する道子と云う大役。

「もう今から胸がどきどきして心配なんです。市川先生にお会いした時、台本にある台詞を覚えるだけでなく、その人間が台本にない時にどうしているだろうか……と云う勉強をするようにと云われました。今は私は道子になりきろうと思つて一生懸命なんです」

と伊東さんは語つていた。

昭和七年生れの廿一才のこの伊東さんの、八等身の均勢のとれた肢体に幸あれと思うのは、ひとり記者のみではなさそうです。

好きな俳優は**ジョセフ・コットン**、**オーソン・ウエルズ**と渋いところ。そんな渋さが案外この人の内容かも知れません。

期待されるひと。



スタア冗談風景

人気者は辛い

保全経済会の大崩壊で映画人の中にも、だいぶ痛めつけられた連中がいた、という噂だが、生馬の目を抜き、目から鼻にぬけるワサビみたいなカツドウ屋にも、そんな人がいたかと今更びつくりした次第。

ところが、お次が日本殖産という金融業の大ブレイク・アップで、このほうはもつと念がいつてる、という評判はどうだろう。



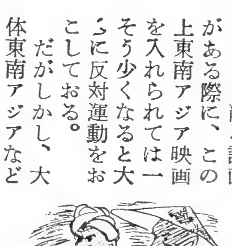
ある二流新聞の編集局での話だが淡島千景、淡路恵子、佐田啓二などの一流スタアまで何か名前を借して宣伝の片棒をかついだというんだが本当かネと訊いてみたいようなもんだ。もし本当ならば、そんな罪造りなことをやるとは、何ともなさけないことである。映画ファン達は、云わば映画人達にとつてお客さまでありお得意であり恩人みたいなもんだろう。それを悪意はないにしろ、ダマした結果になるような儀にたち到らせるとは何ということであろうか。正体の知れないようなものにユメユメ関係してはいけませんゾ。

もつとも、この悪徳金融業者の幹部のメカケに某々という映画スタアがいる、なんて噂も出ていた。おそらく本当ぢやあるまい。また、もしそんなことがあつたとしても、名もなき女優だろう。どうせ近々名前もわかることだろうが、こいつは冗談とも言えないやネ。まつたくの話が。

この勝負は

大映永田社長が東南アジアを視察して帰り、そこら辺の映画を輸入するべきだ、という演説を方々でブチまくつているらしい。

すると一方、洋画関係者の一群は、それでなくても、本年度の洋画の輸入本数が大蔵省で昨年度よりグッと削る計画がある際に、この上東南アジア映画を入れられては一そう少くなると大いに反対運動をおこしておる。



だがしかし、大体東南アジアなどどんな映画を作つとるんだろう。インドが割に発達してる、と云われているが天然色『アーン』をみると、何ともはやハシにもボーにもかからんシロ物だつた。これでは他の作品が思いやられようというもんだ。

と云つて、アメリカの西部劇など百害あつて一利なきものもふんだんに輸入され、お客の大切な日本金をまき上げている現状だからさていかがなりましょうや！

夢見心地の大キャスト

エノケンが三年ごしの業病がなおつて、二月三日の節分の夜、再起大祝賀パーテイがひらかれた。集まるもの映画界の一流人百五十余名、とくに喜劇スタアは全部顔を揃えたんだから、まさに映画の宣伝文句の流儀で云えば空前の超豪華版。新東宝のある若手プロデユサーなど、

「ああア、これだけの顔ぶれで、喜劇の三部作でもつくれば『君の名は』などクソくらえの成績があがるんだがなア」と悲しそうな顔をしておつた。さしづめ、題名は『オレのツラは』てなことにでもするか、というのは冗談である。

エノケンは、昔のように飛んだりハネたりはできないが、ステッキなしで充分歩けるんだから、鳩山一郎より立派だ、と大いにハリキッていた。エノケンさん元気でやつて下さいよ、タノンマッセ。

聞いて極楽

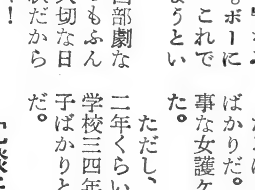
林芙美子の有名な『放浪記』を東映で映画化しているが、これは原作に角梨枝子が大いに惚れて、ゼヒやりたいと云うご執心から、主人公の早瀬ふみ子に扮し、三十年前、林芙美子が流浪したあとを克明にロケーションして廻つている。

この一ヶ所が中国は尾の道から舟で二時間あまりの因の島（インの島とよむ）ロケだつた。

「おい噂によると、この島は女護ケ島みたいだそうな。男はみんな海に出稼ぎに行つて帰つてこんから、島は女の子ばかりだとよ」

撮影隊の若い衆たちは、希望に胸をふくらませてソワソワ、ニヤニヤ調で島に渡つた七人である。なるほど女の子ばかりだ。実に見事な女護ケ島だつた。

ただし、小学校二年くらいから女学校三四年の女の子ばかりとはどうだ。



冗談氏あやまりの一席

こう云うことはまづ大いに謝つておかねばならん。南風洋子さんよ、何ともすみませんでした。あなたが児井プロデユサーに大いに惚れておる、なんてことは、怪し気なるヒステリー女のウワゴトみたいなもんだつた、とあとになつて判つたのであります。どうもあなたの恋人は他におられたらしい。おわびのしるしに御多幸を祈つておきます。

事実と云えども口の端にのぼり傳えられる程に誤り傳えられることもありとかや。誤報訂正歡迎します。



"大阪の宿で"「恵みち子」

ビクターの**恵ミチ子**さんは、この程東京映画と専属契約を結び、第一回作品として「**ウツカリ夫人とチヤツカリ夫人**」に出演することになつたが、これに先立ち**五所平之助**監督に認められて新東宝の「**大阪の宿**」に抜擢された。

本名佐々木定子、昭和八年三月二十七日台北に生れた。二十一年大分に引揚げ、臼杵高女から東洋音楽学校を二十七年に卒業し、帝劇のミュージカルショウ「**美人ホテル**」のコーラスガールに応募、合格した。その時一緒に出ていた**灰田勝彦**さんに奨められてビクターに入社した。今までに十二枚吹込み五枚発売されているが、ヒット作は「**ストレンヂ・センセーション**」タンゴ、ジヤズ、シヤンソンが得意の由。

子供の時台北放送局の専属だつたこともあり、舞台度胸は満点ではつきりした性格の人。大の負けず嫌いで音楽学校は一番で出たと云うし、両親も音楽は分らないが娘の仕事に理解は深いと云うから素質もあれば、恵まれた環境にあると云つてよかろう。ただ植民地訛りのあるのが話していて気になるが、これも科白の時は余り出ないそうだ。これからは映画とレコードの両方に精進するという。



きようとする人間を、冷たく突き放して描いて行くのが、ワイラーの独自の作風なのです。人間の利己心や、物慾や、打算の中に、偽りない人間の本態を見つめて、そこに映画のリアリズムを打ち立てようというのがワイーラのねらいなのであります。

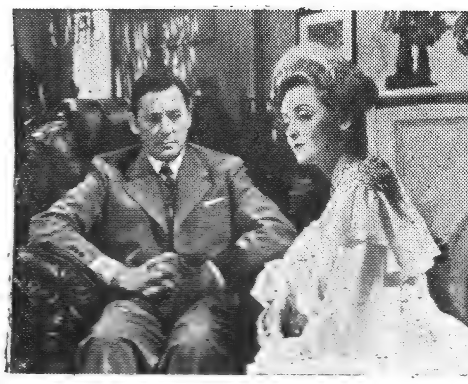
人間というものを、こんなに醜悪なものとして、その見本に提示されたのが、ベテイ・デヴィスのレヂナなのです。ですから、この「偽りの花園」は普通のアメリカ映画のように、甘くも美しくもなく、時には息苦しくなります。しかし、こうして、現実というものの正体を見せようとするワイラーのような監督が一人ぐらいいてくれてもいいと思っています

レヂナのような悪妻が、きつと現実のどこかにいるということを想像するのはあまり楽しいことではありませんが、ベテイ・デヴィスは、そういう女の本態をそのすぐれた演技の中に見せています。

シモーヌ・シニョーレの悪女

シモーヌ・シニョーレは、「**肉體の冠**」とか「**デデという娼婦**」と、いわゆる特殊な娼婦役で、フランス映画界に独自の人気をもつている女優ですが、**マルセル・カルネ**の新作「**嘆きのテレーズ**」で抜群の演技を見せています。

さきにのべた「偽れる花園」のレヂナを悪女と云う意味で、この作品でシニョーレの扮するテレーズ・ラカンを悪女とよぶのは、少々可哀想な気がしますが、彼女もまた、情夫と謀つて、病弱の夫を殺害し、その罪の隠ぺいに必死となり、ついにギロチン台に送られる運命にあるとすれば、善女、貞婦とは申しかねますので、やはり悪女列伝に名をつらねなければなりますまい。







「嘆きのテレーズ」は、十九世紀の自然主義作家として有名な**エミール・ゾラ**の初期の小説ですが、このゾラに関して、**ポウル・ムニ**が主演した「**ゾラの生涯**」があり、また、その代表作「**ナナ**」や、「**獣人**」は再三映画化されているし、この「**テレーズ・ラカン**」もサイレント時代に名匠**フェエデ**が製作しています。自然主義作家ゾラは、人間の性格を遺伝と環境の悪の中に置いて、その醜悪な一面を強調して描いて見せます。さきにルノワールが映画化した「獣人」では、**ジャンギャバン**の主人公は、呪われた遺伝のために、情婦を列車中に殺害するのですが、テレーズもまた、自らの不幸のために亭主を殺して知らぬ顔をしようというのです。

ただベテイ・デヴィスの悪女が、強欲だけのために、他を犠牲にして省みない冷酷さにくらべて、テレーズは情夫への邪恋のためにこの犯罪にまきこまれて行く過程には、彼女が無智であるだけに、あわれとも云えます。邪恋にしても、恋は恋であり、打算一点ばりのレヂナにくらべれば、いくらか同情と、共感が持てる筈です。

物心ついて、親戚の老婆に育てられ、娘時代を迎えると、うむを云わさずに、その病弱な息子の花嫁になり、その未来にも何の希望もない暗い青春を送つているテレーズの人生は、誰が見たつて生甲斐がありません。この牢獄からぬけ出すのはどうしたらいいか。無智なテレーズの本能がうづき、この時期に、たくましい肉体をもつたイタリア人の若いトラック運転手（**ラフ・ヴアローネ**）が、彼女の前に現われたとしたなら、何か別の世界を求めようとするテレーズの気持も無理ではありますまい。私は姦婦や、悪妻に同情するわけではありませんが、この気持はよくわかります。



テレーズたちの住んでいるリオンという町は、ローヌ河畔の古い都で、その街通りを見るだけでも因習と封建的な空気で窒息しそうな気がします。それに病弱で頼りない夫とその老母、テレーズが次第に、邪恋に走り、夫の死を願う気持を、名監督カルネは、まことに巧みに描いています。「**天井棧敷の人々**」以来、やや沈滞気味にあつたカルネですが、テレーズ・ラカンという女性の感情と、その置かれた環境を見事に演出して第一級の効果をあげています。



十九世紀末のフランス自然主義小説を、このように現代の生活の中に持ちこんでいささかの矛盾を感じさせないところにカルネのひとかたならぬ見識が見えるわけです。

テレーズとその情夫の犯行後、原作及びそれに忠実に即したフェエデの前作では、死んだ夫の亡霊めいたものが、二人の抱擁の間に介在して、良心の苛責から彼等が互いの生命を絶つて最後をとげるという結末を、カルネは、徹底的に改変しています。つまり、二人の犯行を唯ひとり目撃した復員の若い水兵が、この後半に介在して、スリラー的な効果をあげています。スリラーと云つても、アメリカ的な煽動ではなく、純然たるアプレ・ゲールである復員兵の立場から、テレーズたちの情痴の果ての愚行を冷静に批判しているのが、この作品を、いつそう高いものにしています。

二つの悪女の型を描きながら、アメリカ的リアリズム「偽りの花園」から、フランス的リアリズム「嘆きのテレーズ」まで、十何年の歳月が流れていることをまざまざ感じましたが、不義の女テレーズ・ラカンも、現代の日本で、息苦しく生きていることでしょう。

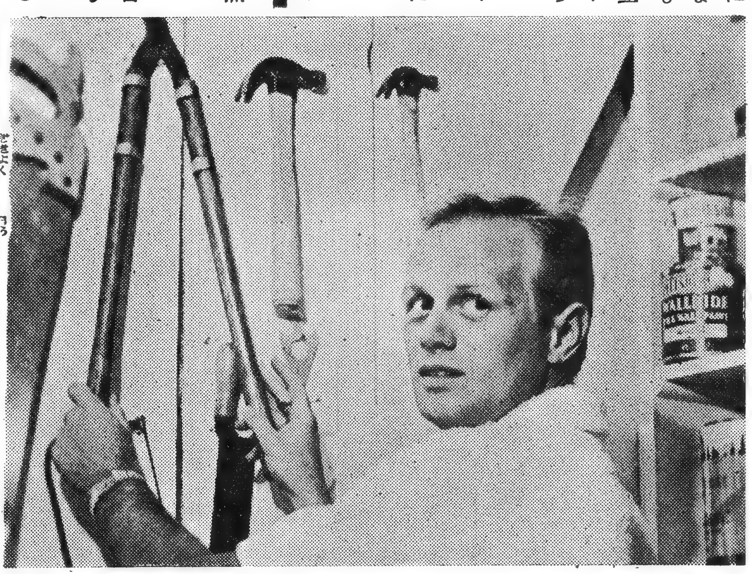




会ったのもこの路だった。彼はこんな田舎町には珍しいリウとした扮装で、口に短いひげを蓄えていた。後年、カレッジ進学のとき、
「いっそ、伯父さんのいるレイク・フォーレストの学校へ来たらどうだ」
とすすめてくれたのは同じひとだし、〃ほら吹き〃はつくづく嫌だと思っているうちに、だんだん無口になったのも、少年の口髯の紳士への憧憬が、次第にその伯父の無口を真似ていたのかも知れない。
だがデイックはやっぱり父親の子だった。持って生れた器用さは、彼を学校一のフットボール選手にした。細身で顔の小さいデイックは、また学生演劇ではいつも主役を演じた。ひろく大きな額の下に、刻み込まれたような瞳は、碧く、きやしやで善良そうだった。彼のやる役がいつもきまってホーム・ドラマの若い恋人だったのも、この瞳のせいであろう。それとも、金髪に似て、軽く、男としては高いテナー級の声のせいかも知れない。デイックが二年のとき、初めてジーンと知り合った。ドイツ型の線の強い顔立ちのジーンはこの全校の女学生のアイドルが、自分と附合ってくれようとは夢にも思っていなかった。二年生の男学生が、新入学の女生徒を祝して全校でダンス・パーテイ（プロムネード）を開く日そのプロム・キングに選ばれたデイックが、つかつかとすぐ側にいたジーンの許に歩いて来て、彼女をプロム・クイーンに選んだのだったから。その後、デイックは二、三度ジーンをドライヴに誘った。
〃サイレント〃デイックは、二人きりのデイトでも相変らずサイレントだったかは、ジーンだけが知っていることだが――。
ただ、ドライヴとはいうものの、デイックとジーンは車をドライヴせずに自分たちの足をドライヴさせたのを唯一の想い出にしている。
「自動車って名のつくものに乗ったんだがね。郊外に出た途端にガソリンがEのところにきちゃったんだよ。大抵のデイトってこういうことになるんだがネ」
物好きな読者がいたらデイックはこう答えてくれるだろう。
ジーンが大学を卒業する日、デイックは彼女にニューヨークの演劇学校に入るようにすすめた。デイックはその間、母校で演劇指導をやっていた。しかし田舎町の演劇の先生では到底デイックは満足出来なかった。運よく最初にとび込んだ商業広告のラジオ会社にひろわれてから、デイックのブロードウエイへの途もひらけた。太平洋戦争のおこった四〇年、ジーンとデイックは結婚した。

トミイ・ユードウ

一九四七年は戦後のインフレの最中だった。ハリウッドでは好景気にあふられて、各撮影所はいろんな試みをした。ミュージカルが作られ、ジエーン・ポウエル、シド・チャリシー、ドリス・デイ、アン・ブライスというスタアが明日のスタアに選ばれた。二十世紀フォックスでは、ニューヨークのラジオ・シテイと向いあわせにある五十六番街のジョー・ピンカスという男から一時間に亘る長電話を受けた。ジョーはフォックスの紐育特派のスタア発見係である。
新スタア、デイック・ウイドマークは前歴にもない、残忍な精神と、脊筋にとおるような薄気味悪い笑い声を出すトミイ・ユードウの役を与えられた。この映画「死の接吻」では、善人役のヴイクタア・マチユアが、あの堂々とした体軀と不敵の面がまえにも似ず、淡い髪のひよろりとした小悪漢にすっかり喰われてしまった。
デヴュウ作が当るということは当らなかったよりはいいに違いないが、あまり有難くないこともある。デイックは立て続けに何本ユードウまがいの役をやらされたろう。ファンは、ウイドマークにスクリーンでのユードウを求めはじめたのだ。彼が、アンとたわむれたり、ジーンと一緒に笑っている写真をとらせると忠実なファンから、「デイックはそんな甘っちょろい男じゃない」という抗議の手紙が山積した。
ファンの敏感な嗅覚も全部が全部間違ってはいない。デイックは〃サイレント〃と呼ばれた。彼は孤独を恐れない人間である。ミネソタの両親が想いもしなかった途を一人で開拓し、ここまで舗装して来た男である。一人でたのしめるゴルフに、午後の数時間をついやし、夕食後、早くから本を読み、時には蒐集したレコードに憩いを見出すのだ。ジーンが安らかな眠りに陥ったとき、そっとぬけだして夜の香を味わいに散歩するのも、仕事がないときのデイックのたのしみの一つである。こんなとき、彼は一切の社会的な煩雑さから逃れて、自分だけの空想にひたることが出来る。トミイ・ユードウ以外の仕事にも手を出したいと考えたり、明日、おきたら早速吹き込むテープ・レコーダー用の科白を想いついたりする。テープ・レコーダーはデイックの学生時代からの友で、いわば、彼の人生遍歴の半分は、ここに収められているわけである。
昨年、コロンビアで「ケイン號の叛乱」をとるので、デイックを主演者として借りたいと申し込んで来たことがあったがフォックスが拒絶してヴアン・ジョンスンに替った。これはデイックの俳優としての生涯に大変なマイナスだったかも知れない。近い将来に、ユードウだけでないデイックの出演作がきっと出来るに違いない。
（終）



家庭で庭園の手入れを楽しむウイドマークの表情

米仏映画の悪女研究

「偽りの花園」「嘆きのテレーズ」
洋画ファンの手引として

筈見恒夫





ベテイ・デヴイスの悪女

アメリカ映画の中に、悪女が登場したのは、いつの頃からだろうか、ということを考えて見るとなかなか面白い問題であります。
その昔のアメリカ映画には、妖婦とか毒婦とか、男を欺すのを常習にしている女性は現われましたが、いわゆる「悪女」はめったに現われて来ません。妖婦や、浮気女も、広い意味の悪女にはちがいないのですが、現代のように、女性の社会的地位が、男性と同じように認められ、離婚も自由になって来ると、浮気な人妻や、男を手玉にとる職業婦人ぐらいでは悪女の尊称？に価しなくなっています。
その程度で悪女というなら、アリ・カーンと浮名を流したリタ・ヘイワースやロッセリーニのために、亭主をすてたバーグマンの方が悪女と云えるわけです。では悪女とまで云われるのはどのくらいのことをしたらいいのでしょうか。
つい最近の映画では「深夜の告白」で情夫と計って、亭主を謀殺し、保険金をまきあげようとするバーバラ・スタンウイックの役などは、立派な悪妻悪女です。スタンウィックは、ゲーリー・クーパーの「吹き荒ぶ風」でも、同じ型の悪女をやっていますが、こういう悪女的な性格を、アメリカ映画の中で開拓したのは、ベテイ・デヴイスです。彼女の出世作になったのは、サマーセット・モーム原作の「痴人の愛」の女給役です。このヒロインは、男の愛情も、まごころも、反古にして、自ら好んで泥沼へ身を沈めて行く始末におえない無智な女です。
この戦争直前に、デヴィスは、名監督ウイリアム・ワイラーと組んで、二つの悪女を見ごとに演じています。一つは、同じモームの戯曲の「手紙」を映画化した、日本題名「月光の女」で、これは夫の目を忍んで姦通した不義の相手を、自ら射殺して、罪を他になすりつけようという不貞の人妻であり、この作品は、五年ほど前に、日本でも公開されました。
今度来たのは、リリアン・ヘルマンの戯曲を、同じくワイラーが映画化した「偽りの花園」（原名「小狐たち」）であります。ここで、ベテイ・デヴィスの扮するレヂナ・ギデンスは、今まで映画に現われた中の最大の悪女、稀代の悪妻とも云うべき存在です。彼女はすでに年頃の娘（テレサ・ライト）をもち、年増の盛りもすぎようという年齢で、もはや脂肪ぶんもなくなり、女としての夢をまったく失っているのですが、少女期を貧しい家庭ですごし、富裕な現在の夫に嫁して、彼女の全身は恐るべき物質慾に燃えあがっています。利己主義と打算の権化であり、心臓をやみ、余命いくばくもない夫や、娘に対して、妻として、母として愛情のかけらさえなくなっています。
小狐たちというのは、その彼女と、彼女に負けない物慾の兄弟たちを指しているのです。この映画はアメリカ南部が背景になっていますが、二十世紀の初め、この南部に、北部の工業資本が入って、紡績事業がようやく現代化そうという時代です。この女や、男の小狐たちは、やがて成長し、大狐となり、資本主義アメリカの花園を荒らし、私腹を肥そうというのです。レヂナ・ギデンスという女は単に悪女であるだけではなく、資本家の打算と冷酷を身につけています。
だからこそ、現在の夫ハーバート・マーシャルが、心臓の発作で悶死しようとするのを目のあたりに見ながら、眉ひとつ動かさずに身まもって、夫の死後の打算を肚の中で勘定しているという驚くべき性格として描かれています。
多くの大衆に、より楽しい映画を見せることを目的にしているアメリカが、何故こんな誰にも愛されぬ悪女を主人公にし、こんな冷たい映画をつくったかということは面白い問題です。
ワイラーは、昨年度も「探偵物語」や「黄昏」のような一級品をつくった監督ですが、彼は自然主義の小説や、戯曲から影響を受けていることがわかります。「黄昏」にしても、「女相續人」にしても、十九世紀末、日本で云えば、明治年代に背景をもって、移りかわって行く時代の中で、もがきながら、本能的に生

いた。それにしても、天気がよくならなければどうにもならない。

すさまじいクライマックス

その朝は珍らしく天気だつた。一点の雲もなし、とまでいかなかつたが、とにかく港の上は陽がさしている。

舟上の大喧嘩の撮影で、朝八時半、波止場に集合、ランチで貨物船にはこばれた。

何という雑然と喧びすしい港であろうこれほど活気のあふれた、強烈な生き方をしている港はちよつとないだろう。港の中央に白根山丸という三千七、八百トンほどの石炭船が泊つている。この甲板がロケ現場だ。

甲板から海面を見おろすと三十メートル近くある。山根が、久留米餅の仕事着にアネさんかぶりの手拭で、若い石炭運びの娘になつている。汽船に横づけされた石炭舟の石炭の山積している上で、本職の女の人としきりに話をしている。そのうち、まだ機械のなかつた時代に足場を組む本職の沖仲仕連がやつてきて、たくみに、何の手がかりもなく鋼鉄船のドテツ腹にロープと板で階段をつくつちまつたのには驚いた。この一段々々に仲仕がいて、石炭のザルをリレーで運ぶのだが、これが機械よりも能率的だつたそうだ。筑豊炭田を奥にひかえたこの港が、これらの沖仲仕たちで一パイになり、それを統率するために親方が生れ『花と龍』のようなロマンスが生れたのも道理であろう。

撮影がはじまると、陸からランチに乗つて見物にくる人々が大勢いる。ランチの乗船賃が往復で百円だそうだ。思いがけない商売がこの日だけ生れたもんだ。

いよいよ大喧嘩のシーン。型をつける陣殺師が大勢の俳優たちの間で「君は、こう打つてかかる、それを引つぱづして横つ面を、こう殴つて……」なんて一つ一つ教える。ところが、いざテストになると狭い甲板のことで、なかなか思うようにいかない。三、四回のテストの間に二人も怪我人が出てしまつた。

この大騒動の留め役が藤田だ。紺の香のする、リウとした印バンテンを着て、菅笠をかぶつて「おい、やめろツ、やめんかア」と絶叫しながら、もみ合う群衆の中にとび込んでくる。

演技とはいい条、力一ぱいあばれている人々の中に割つてはいるんだから容易ぢやない。ときどき引つくり返つたりしている。

「うん、喧嘩はああするもんぢやない……酔つぱらいのごたる……」なんて、見物席から老人が感想をのべている。察するところ、昔は鳴らした人かも知れない。もつとも、本当に喧嘩をしたんぢやいくら躰があつても耐るまい

ようやく、この大喧嘩のクライマックスにかかつた。藤田の親分が、こらえかねて、一人を投げとばす場景だ。投げられて海の中にスツ飛ぶのである。

いくら暖冬だと云つても冬の海だ。その上甲板から海面を見おろすと、ぞツとするほど高い。

「ひと飛び三千円もらえるんです。どうです、志願しちやア……」なんて、助監督が笑つている。ブルブル、一万円でもお断りだ。

いよいよ本番になつた。小柄な、いかにも精悍そうな俳優が藤田の相手をしている。とツ組み合いになつた。あツ、投げた。丸くなつた肉体が、弧をえがいて海の中へ。

「どうでしたア」

と一度沈んで水面に浮び上つた青年が大声でキヤメラに怒鳴つた。あんまり飛びすぎてキヤメラの視角から外れちやつた、という。エヌ・ジー、やり直しだ。濡れそぼけてタラップをあがつてきて、も一度、新しい絆天に着かえて、また飛び込んだ。およそ不死身に出来上つている青年らしい。二度目でようやく撮りあがつた。大勢の見物たちは、やんやの喝采であそ。こんな珍らしい見せ場はめつたにあるもんぢやない。

たそがれ頃、撮影が終つて、まる一日踏まなかつた土をふんでホツとした。港一ぱいの煙と、ボーという汽笛の哀音は旅人どもに旅情をそそえる。六百マイル、三十何時間汽車に乗らなければ東京に届かない九州の片隅だつた。

撮影が終ると、夜は夜でスタアたちは座談会や土地の有志の人々への挨拶で躰の休まる暇もない。第一、街中にいても宿屋の奥まつた一室にいても、見物人の大群だ。小犬にたかるノミみたいに騒々しい。塀にのぼつて覗き込む、乗り越えて廊下まで侵入してくる。名声の高すぎるのもよし悪しみたいなもんであろう。

新進の波島進が、「今夜はひとつマージヤンでもやりますかナ」と挑戦している。すると傍から助監督が「あんたは睡眠不足になると顔がはれぼツたくなるから、夜更しはいけませんぞウ」

とダメを出された。なかなかスタアへの道はつらいらしい。

「じや、この映画の撮影が終つたらぜひやりましよう。これには頑張つています」

彼ははりきつてそう言つた。

宿のむこうは海辺まで屋根の連続で、その遥か彼方に、帆柱だけが、何か操り人形の道具の一つのように、東から西に音もなくすべつて行つた。



〝いんど丸〟上の乱闘シーンで張切る一行



火野葦平さんと会食する島崎さんと波島進さん



若松一の高臺高野山ロケで老け姿の山根さんなど

の家を訪ねた。今は陋屋に傘の修繕と今川焼屋をしている三島に華やかな昔を取り戻そうと語つた岡部が翌朝家に帰つてみれば、そこには寺位が訪ねてきていた。三島を殺すと云うのはデマだつたが、寺位は「東亜あけぼの会」という再軍備促進団体を作つていて、岡部を会長に祭りあげてしまつた。しかし八年間再軍備案を書きためてきた岡部の野心は燃え上つた。

披露宴の夜、落語をアルバイトにしている憲治はお座敷をかけてきた妾の小松浅子（東恵美子）に誘惑され、浅子の若いつばめになつてしまつたが、彼の瞼には花嫁姿の久美子が焼きついていた。

岡部は寺位の意のままに各地に講演旅行を続け、彼の「新軍備促進計画」という本も出版され世間の注目を集めるようになつてきた。その上シンガポールで知合つた島村よね（杉村春子）が金融業をしているのに逢い、岡部の故郷の山林を担保に三百万円の資金も出来たので、東亜あけぼの会の運動はますます表面に躍り出していつたが、それと共に岡部は昔日の暴君ぶりを発揮しだした。

ちか子はそんな父の姿を元気だから嬉しくもあつたが、その仕事がどうなるのか心配でもあつた。宗行二郎（岡田英次）との恋愛も、はらはらする思いで父を見守つているちか子は、結婚したい気持も悶えがちだつたが、暴君の父が寺位との結婚を押しつけて来た時、ちか子は家を出ようと決心した。

こうして岡部の羽振りがよくなるにつれて、子供達は彼から離れていつた。憲治は父が六十年の結晶である勲章を持ち出して浅子に愛の証拠だと与えてしまつた。

そうしてある日、寺位がやつていた密輸がばれ、新聞にデカデカと報導されて、東亜あけぼの会は潰れ去り、岡部の夢は一瞬に消え去つた。半狂乱の岡部が、よねを訪ねれば、一度は大臣夫人を夢みて岡部と一夜を共にしたよねから剣もほろほろの扱いをうけ、よねの教えで、憲治の居所を知つて浅子の家に行けば、彼の勲章は犬の首にぶらさがり、浅子の帯止めになつていた——そして家には女の幸福を求めて宗行の許に去つたちか子の手紙が残されていた。

全てを失つた岡部は憲治と共に、故郷の、今は彼のものでなくなつた山に行つた。そして、勲章を過去の遺物だと嘲ける憲治をカツとなつて射殺し、自分も林の中に死に場所を求めて消えていつた。

陽のあたる家

松竹大船作品

期待される松竹の新進監督田島恒男の第一回長篇ホームドラマ。原作は真山美保の舞台劇「草青みたり」である。（ものがたり）復興から取残された東京の一隅、建ち並んだバラツクやトタン囲いの小舎の一つに中原みつ（轟夕起子）の一家が住んでいる。みつは夫に戦死された後、四人の子供春子（紙京子）夏子（野添ひとみ）秋男（前田正二）冬子（村山延子）を抱えて日傭人夫として働く未亡人であるが、苦しい生活にもめげず、子供達がそれぞれに希望と勇気を持つて生きようとしていることに泌々とした幸福を感じていた。

近くに住む電気工夫の山田徳二（日守新一）は妻に死なれたやもめ暮しで、長男の則夫（田浦正己）と次男の辰夫（小畑やすし）を抱えて淋しい生活を送つている。徳二には咲子（水原真知子）という未亡人の娘がいるが、彼女は幼い子供をつれて家を飛び出し、身を持ちくずしている。

みつは子供達のすすめで徳二と結婚したが、その幸福も束の間、徳二は仕事中不慮の死をとげてしまつた。六人の子供を抱えて、みつは又集金人として就職し、けなげに働き出したが、徳二の弔慰金の中から中古自転車を買えば、やがてそれが盗品と分つて引きとられてしまうし、苦しい日が続いた。

そんなある日、この一家に一つの吉報が舞いこんだ。春子がファッション・デザインに入賞し三万円の賞金が貰えたのだ。ところが、それを喜んでいる暇もなく、みつの心を痛める事件が起きた。則夫がこれ以上迷惑をかけたくないという気持から、弟を連れて千葉の伯母の家に失踪してしまつたのである。みつは早速千葉に出かけ則夫を優しく説き、連れもどした。其処には咲子も帰つて来て、みつは大勢の子供達にかこまれ、久し振りに一家に明るい陽が射しはじめた。





カツト写眞は甲板上の乱闘シーンで活躍する藤田進・山根寿子さん。

希望訪問

"花と龍"の北九州ロケを追つて

活躍する藤田・山根・島崎さん達………

本誌特派　南部僑一郎

港に煙のこめる頃

「若松はケムリとオッパイの街だ」

これは、東京から行った若い芸術写真家のセリフである。『花と龍』の原作者火野葦平に云わせると、

「若松には七色のケムリが立ちこめている」んだそうな。良質の石炭からは白い煙、悪質のは黒色で、朝のモヤのあるところは紫で、といろいろ観察してみたがわれわれ東京から行つた連中は、五色しか識別できなかつた。

オッパイというのは、ヌードを撮影している彼の観察で若い女性が健康で美しい、という意味だろう。

「花と龍」ロケ隊は六十余名、小さい若松の中に八ケ所の旅舍に分宿して待期していた。この町はまさに『花と龍』ブームである。どこに行つてもロケーションの話題ばかりだつた。

とくに、藤田進は大変な人気の頂点にいた。ここから少し離れた久留米の産だし、この前『殘侠の港』できたことがあるし、

「ここら一帯、ぼくの思い出の一ぱいころがつている土地ですよ。戦争中に八幡にきたんですが、着いて二、三時間すると大空襲で、全部バクダンばかり、いやア怖いのなんのツて……ああ、戦争はいやだなアと思いましたネ」

盆ゴザの前で「勝負ツ」と一声、サイコロのはいつてるツボを開けようというすつきりと美しい姐御だ。現在この種の妖婦役をさせると、彼女の右に出るものなし、というほどぴつたりとはまつている。

山根寿子は、玉井親分の恋人から、次第に老いて五十代のオバアさんになるまでの、三十年間の移りかわりを演出してみせる。だから、神社の境内のロケーションでは白髪の上品な老女になり、次の朝の山の上のロケでは、若く美しく健気な新妻になるという芸当を演じている。

この山根寿子の役が、原作者火野の母親で、まだカクシャクとしてロケ隊の一行に加わつていたのにはおどろいた。実在の人物と、映画の役とがいろいろ話をしている。

「昔のいろんな習慣のことなど教えていただけるんでとても有難いんですよ。この前も、公会堂の夜のシーンの撮影のときも、キャメラの横で、私のほうをみて泣いてらつしゃいましたわ。昔の苦労を思い出したんでしようかねえ」

と、しんみり語つていた。

だが、どうした加減か、やけに暖かくて、小雨か曇り日ばかり。九州の新聞には、今年は多がなくて、矢庭に春になるだろう、なんて書いてある。六十余名のロケ隊は、ただただ手をこまぬいてみているばかりで、相手がお天道さまでは文句の持つて行き場がない。

怪人物に扮する伊藤雄之助が、三日おくれて馳せ参じた。みんな酒をのんでいるのに、島崎雪子と相談して、

「ねえ、おしるこ・パーテイやりましようか」なんて提案している。あんな勇ましいマスクをしていても心根はやさしいのであろうか。彼とほとんど同時に大親分になる佐々木孝丸が現われて、このほうはまた酒ばかり呑んでいる。

「どうも、この土地にきて、本場のフグにヒレ酒などやつてると、こたえられませんな」

と大変なご満悦だ。

佐伯清監督はひとりでジリジリしながら、関西ベンで、

「こいつあ、どもならんナ」

の連発だ。まさに、ドモナラン毎日だつた。

「この映画は、表面からみると、ドスの斬り合いがあつたり、舟の上の大喧嘩があつたり、アクション・ドラマみたいでしよう。それが存外、心理的なものが多くつて、どうも地味になり過ぎるような気がするんです。もつとも、火野さんはあんまり動きだけの作品にしてくれるなつて云つてますがね」

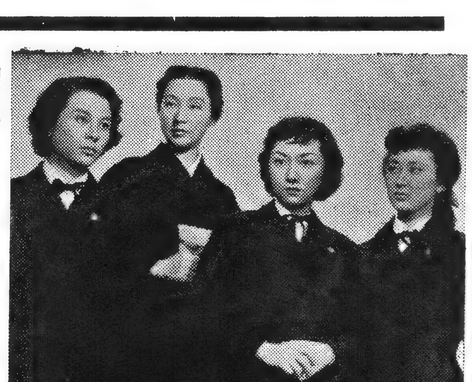
と当時のときの様相をいろいろ語つてとしみじみ述懐していた。ただし、現在の彼は、若松の大親分、玉井金五郎に扮して、怖いなんて言葉とおよそ反対の人物になり切つていた。

島崎雪子は二つの世代にまたがる母と娘の二役。母のほうは、明治のバクチ打ち鉄火な女になつて腕に花の刺青をいれ、

映画物語

女の園

松竹大船作品



意慾に満ちた話題作を次々と発表して映画界に異才とうたわれる木下恵介監督が、阿部知二の「人工庭園」から自身で脚色、両高峰を始め岸、久我などの豪華キャストに、阪妻の遺児田村高広君のデヴューと云う話題をそえて、クランク・インしたもの。

（ものがたり）京都郊外にある正倫女子大学は、校母大友女史（東山千栄子）が伝統としている所謂良妻賢母型子女育成を教育の理想として、徹底した束縛主義で学生達に臨んでいた。学生は七つの寮に起居し、補導監平戸喜平（金子信雄）寮母五条真弓（高峰三枝子）等が、学生達の私生活にまで深い干渉を与えていた。

姫路の瀬戸物問屋の娘である新入生の出石芳江（高峰秀子）は、三年程銀行勤めをした後入学した為か、消燈時間の禁を破つて迄勉強しなければ他の学生達についていけない上に、同郷の青年で東京の大学に学ぶ恋人下田参吉（田村高広）と自由な文通も許されない寮生活に苦痛を感じていた。

芳江と同室の新入生で敦賀から来ている滝岡富子（岸恵子）は、テニスの選手で、テニス友達の大学生相良（田浦正己）があつた。彼女は芳江と下田の文通に仲介場所を紹介してやつたりするが、多休み前、相良とのことが原因で停学処分を受けてしまう。

赤い思想を持つと噂されている奈良出身の上級生林野明子（久我美子）はそれでいて学校の有力な後援者の子女であり、しかも五条が前に犯した恋愛事件の秘密を知つている為、彼女だけは五条と対立出来る力を持つていた。

多休み、芳江は厳格な父の眼をくぐつて姫路で参吉とほんの束の間逢うことが出来た。

富子の多休み中の生活を五条達が糾弾した事が契機となつて、明子を先頭にした学生達の自由を要求する声は爆発した。しかし、学校側の巧妙な方法によつて、この結果はむしろ悪い事態を招いてしまつた。

数人出された犠牲者の中で、軽い処分だつた芳江は友人間に憎まれ、神経衰弱気味の彼女は寮を飛出してしまう。下田の許に一時は身を寄せたものの、友人達への責任感に悩む彼女は再び学校にもどり、夜の人気のない教室で自殺していつた。

この事件は校内に激しい破乱を呼んだ。下田や芳江の父は勿論、明子や富子、五条や平戸にも、学校側、生徒側にも、夫々の立場でたがいに相容れ得ない感情の波をたたきつけたまま……

勲章

俳優座作品



名匠渋谷実監督が一年ぶりにメガホンをとる野心作「勲章」は橋本忍、内村直也と渋谷監督自身のオリジナル・シナリオに依つて劇団俳優座の第一回自主製作作品としてスクリーンに登場するもので、渋谷監督にとつても他社における最初の演出作品となるもの。

（ものがたり）落ちた偶像——元陸軍中将岡部雄作（小沢栄）は子供のちか子（香川京子）と憲治（佐田啓二）と共に義弟の西野梅吉（永田靖）の家に居候している。西野の娘久美子（岩崎加根子）の結婚披露宴で保安隊の黒仕（松本克平）に会つた岡部は、彼の元副官寺位新平（東野英治郎）がマヌス島戦犯から帰つたことを聞き、寺位が三島を殺すという噂を噂に帰途陸士時代からの親友三島善五郎（千田是也）

後は知恩院だと云うが、案の定昼飯の頃から雲が拡がつて来た。

京都の人たちはロケ馴れがしている筈なのにそれでも寺門の前には黒山の人だかりが刻一刻殖えて来るばかり。遂に止むなく門を閉ぢて群衆をシャットアウトする。

休憩中のお伝の方（**宮城千賀子**さん）に挨拶する。監督の阿部さんが麻雀狂だというので、彼女も昨夜は一卓囲んだらしい。どうです成績は？

「一駄目、散々よ」

傍で千世の**關千恵子**さんがニコニコ笑つている。

「私これで撮影終りよ、お先に」と、一礼して去ろうとするので昨夜**香川京子**さんから是非お逢いしたいという伝言を伝えると、

「まあ、そうですか、私もお逢いしたくて何回も電話かけたんですのよ」

二人は「ひめゆりの塔」で共演して以来の親友である。

ではここで主なる登場人物を御紹介しよう。

お伝の方（**宮城千賀子**）は、町方火消人足の妹として育ち乍ら天性の美貌によつて八代将軍吉宗の側室として可愛がられているが、御殿では成り上り者として迫害が絶えない。

お歌の方（**花井蘭子**）は、同じ吉宗の側室だが、吉宗の愛がお伝へ移つたので、今は大目附西尾隠岐守（**山形勲**）と道ならぬ仲になつている。二人はお伝の方を亡き者にし、大奥乗取りを策している。

おはん（**長谷川裕見子**）は、お歌の方に仕えている腰元だが、御典医安養院（**田中春男**）に手ごめにされ、御殿を追放になり、遂には西尾隠岐守の妾となつた。

安井竹斎（**中村扇雀**）は、御典医として大奥に仕える中、何時しかお伝の方を深く想うようになりお歌の方、西尾隠岐守の二人がお伝の方の命を狙つていることを知つて、お歌の方を毒殺しようとしたが、誤つて自分の許婚妙（**野上千鶴子**）を殺してしまつた。

芳沢あやめ（中村扇雀の二役）は、江戸中村座の女形で竹斎と生き写しである。ふとした事から竹斎を知り、彼の大望を聞かされるに及んで何かと竹斎の力になつてやる。

黄昏の吉松（**水島道太郎**）は、お伝の方の実の兄で、お伝の身を案じ、随所に出没して蔭ながらその危急を救つてやる。

昼飯を済ませて知恩院へ行くと既に細川俊夫、長谷川裕見子さん等が待機しているが、空はすつかり暴つて撮影は中止になつた。

映画監督の一頁略傳（其の七）

不死鳥のように 生きかえる人

豊田四郎



豊田四郎をみていると，どこからあの激しい気魄が生れてくるのであろうと目をみはる思いがする。痩せぎすで小柄で，細面ての眼のやさしい人だ。京都生れの京都育ちだから，物腰だつてとても静かだ。年ももう46，7才になつている。どこからみても，父として，隣人として，友人として柔和な良識ある人柄だ。

ところが，ひとたび撮影の現場にのぞむと，一歩もゆづらない気構えになる。しかも，たいていキャメラの三浦光雄技師とコンビだ。この人がまた，豊田四郎とよく似た感じの人柄で，女性のようにやさしい面があるが，これが稀代のコリ屋である。何と様相といい，製作の魂といい，よく似たものだと感心する。

「このソーダ水，も少し泡の立つようにのんで下さい」

何のセットだつたか題名は忘れたが池部良が喫茶店のシーンで，ソーダ水のコツプを前にして，ストローを手に持つている場景のときに，三浦技師がそう注文している。ソーダ水の泡が，きらりツと光るところを捉えたいと云うのだろう。何度もやつてみるが，仲々気に入つたアブクが出てこない。たつたこの一カットで，5時間近くもかかつた。この間ぢゆう，豊田監督はひとことも云わずに，ジツト見守つている。この2人の辛抱強さはどうだろうとあきれたものだ。

この前大映で『雁』をとつたときだ。この企画で一応進めることになつたが，大映側としては，どうしてもヒロインの高峰秀子の性格を少し変えてほしい，と注文をつけた。原作に近い諦らめの世界だけで生きてゆくメカケにしては，あまりに惨めで観客にうけないだろうと想念したからである。

それではどう訂正するか。ここで大映と豊田四郎の一騎討ちがはじまつた。たいていの監督だと，ほどよいところで折れ合うものだ。だが，彼はどうしてもひかなかつた。

「豊田つて，おそろしくネバる男だなア，あんな人とは知らなかつた」

と，あとで大映幹部の一人がびつくりして語つていた。

このシンネリムツツリさ，芸術に対する我執が『雁』をうみ出したのである。

彼は大正13年の秋，まだ大船にうつる前の蒲田撮影所に入社した。30年前のことで，まだ中学を卒業して間もない頃だつた。主に，島津保次郎の助監督をやつていた。

『小柄で，大声で，チョコマカとよく躰の動く，オヤジ（島津のこと）にもつとも嘱望されていた助手だつた」

と，そのころの彼を弟子だつた吉村公三郎が語つていたことがある。

「豊田には才能がある」とオヤジはほめていた。撮影所にはいつて2年ほどたつてシナリオを書き，それが映画化されたほど時期が早かつた。

だから，四年目で一人前の監督に昇進し，松竹の姉妹会社だつた新興帝キネ大阪スタジオに，新進気鋭の監督という折紙をつけられて派遣された。得手に帆をあげ，といつた状態である。23，4才だつた彼の得意や思うべし，と云いたいところだ。小柄だつたが美青年で，東京仕立ての洋服をきりりと着たその頃の彼が目にうかぶ。

この撮影所で第1回の『彩られた唇』と他2本を世に出した。ところがこと志とまるで違つてきた。彼の意気でシヤレた都会感覚は，新興帝キネの歩調にまるで合わない。興行成績は悪いわ，重役たちには非難されるわ，一敗地にまみれた，という感じで，ついに，蒲田に追い返されてしまつたものである。

おそらくこの時の彼の非運ほど惨烈なものはなかつたであろう。天国から一ぺんに地獄におとされたようなものだ。しかも，蒲田に帰り新参のような立場でもどされたとき，後輩の吉村公三郎は短篇ではあるが，すでに一本とつていたのだ。

昭和5年から11年まで，彼はも一度助監督に落されてしまつた。おそらくこんな経験を持つ監督は，日本の映画界にひとりもいないであろう。1本立ちの監督になつて，永い間仕事を与えられなかつたという例はある。

彼は無念の涙をのんだことであろうと想像する。もし映画と取つ組んで生涯をおくる心構えのない青年であつたならば，この六年の忍苦はとても続くものではなかつたにちがいない。映画人をやめていたであろう。だが，彼は歯を喰いしばつて耐えた。彼の不屈な精神は，きつとこの間に養われたものであろう。

昭和12年の春，東宝の一翼だつた東京発声に移り，一年たつて「若い人』を発表した。これが豊田四郎の売り出し作品で，つづいて『泣虫小僧』『冬の宿』『鶯』と．14年には3本も佳作を出している。古い映画フアンならば『冬の宿』のあのみじめな部屋の谷のような描写を忘れないだろう。『鶯』の田舎の小さい警察署内部の小刻みに描き分けられた人物像はいまだに思い出すであろう。この映画で，それまで新劇俳優だつた杉村春子が，はつきり映画女優として使えることを証拠立てた記念すべき作品だつたことも，この際つけ加えておきたい。

この時代から，彼は文芸作品の映画化を得意とする監督だと肩書がついたこれは彼にとつて，一種の呪術のように，大きい制肘になつたものではあるまいか。それと云うのが，戦後『四つの恋の物語』の第一話で，かすかな冴えをみせた以外に，何一つ取り柄のない，はげしいスランプにおち入つてしまつた。一部の人々は「豊田四郎はもう立てないだろう」と眉をひそめさせるほど彼の腕は落ちた。『わが恋は山の彼方に』など，あれほどの永い製作日数をかけながら，テンポの乱れた支離滅裂な作品になつてしまつている。

「完成したとき長すぎたので，大部分カツトしたためにいけなくなつたのだろう」と同情した見方もあつたが，あらかじめ予定尺度の決つたものを，長くとることが第一歩の誤りだ，という見方もある。

だが，またしても永い不遇から抜出ることができた。『雁』は彼の第二の更生であろう。彼の鍛えられた魂は，なかなか屈服しないようだ。われわれはこれからの彼を期待している。

「大阪の宿」ロケ先きで 佐野周二大いに語る

長年松竹の二枚目として君臨した**佐野周二**さんは、一頃精彩を欠いていたが、昨年フリーとなつてからのカムバックぶりは凄まじく往年の人気を取戻すのも間もないと思われる。



〃大阪の宿〃出演の話は大分前からあつたと聞いていますが……。

「ええ、五所さんから出ないかと云われたのが三年前で、松竹に話しをしたが蹴られてしまつたので……」

五所さんとのコンビは〃新道〃とそれから？

「〃**花籠の歌**〃もそうでした。昔はなかなかうるさい人で、細いとまで云いましたが、最近は大分円熟されましたね。特に手の動かし方がやかましくて、スチール一枚撮るにも細く指図してね。私の兄が五所さんと同じ今川小学校だつたりして五所さんとは因縁が深いんですよ」

江戸ッ子の佐野さんとして大阪は？

「僕がまだ映画へ入る前に神戸の防水の生地を作る会社に勤めていたんですが、大阪に上の姉の家があつたので、そこから通つていた。販売係りで、外人相手の商社参りをやらされ、嫌で嫌で仕方がなかつた。遂に上役と喧嘩して東京へ帰つちやいましたがね」

〃大阪の宿〃を地で行つた訳である。

「それから直ぐ松竹へ行つたんですが、恰度蒲田から大船へ移る頃でね、月給が四十円でした。前の会社もやはり四十円だつたがその頃としては充分喰えたですね。で第一回の召集が、恰度〃彼女は何を覚えたか〃を撮り終えて大阪へ遊びに来ていた時で、これでなかなか思い出深い土地ですよ」

大阪の芸者に就て。

「そう、芸者はやはり京都の方がいいね。女房の実家が京都なので今度も帰りに寄ろうと思つていますがね」

食物では？

「やはり〃てつちり〃かな。一体にこつちの食物は味が薄いんでね……」

今度の佐野さんの役はどうですか？

「シナリオを書き直して貰つて大分良くなつたが、大体がもたれ役で筋運びをつとめている恰好ですね」

「今度はお子さんも御一緒ですね。

「中学四年を頭に四人いますが皆引連れて来ました」

フリーになつてから一番気に入つた作品は？

「〃**君に捧げし命なりせば**〃ですね。スタッフの真剣さには頭が下つたし、僕自身一番気を入れてやつたね。その次は〃**もぐら横丁**〃かな」

戦後の女優さんで有望と思う人は？

「フリーになつてから組んだ人では島崎、宮城野、岡田君なんかいいね。皆一生懸命勉強している。今度の乙羽君も初めてだが楽しみにしている」

〃君に捧げし〃の若杉監督はどうですか？

「芝居のつけ方なんか皆僕に相談してそれから撮るんだが、正直に本の通りに撮っちやうので、出来上つたものは些か間のびがして見えるのが欠点だが、熱心だし有望な人ですね」

最近ラジオでもなかなか御活躍ですね。

「ラジオ東京の〃**ウツカリ夫人とチヤツカリ夫人**〃に出ていますが映画だとごまかせてもラジオはそうはゆかないから大変勉強になりました」

今後やりたい役は？

「ホームドラマなんかですね」



「恋慕笠」の白濱ロケで活躍する大谷友右衛門



「**鯉名の銀平**」に続く新東宝・創芸プロ作品「**股旅わらじ恋慕笠**」は、九日伊豆白浜ロケからクランク・インした。監督は「**花の三度笠**」「**花の喧嘩状**」などで好評を博した新進**田坂勝彦**で、同監督としては初の他社出演作品である。

主演は昨年演技における新生面を開くべく東宝を去つて新東宝と契約を結んだ**大谷友右衛門**が「鯉名の銀平」に引続いての出演で、相手役の恋人おつるを**南寿美子**、同じ宿命の想思の二人を**三浦光子**・**江川宇禮雄**、**沢村國太郎**、**阿部九州男**、**鳥羽陽之助**、**富田仲次郎**等が助演している。

物語は**長谷川伸**の名作「**股旅草鞋**」を**八尋不二**が脚色したもので**イカサマ**賭博打ちの免鳥富五郎（大谷友右衛門）は、イカサマ賽は使つても男の道にイカサマは出来ない男。娘おつる（南寿美子）と同じ想いに生き乍ら、親分の恩義との間に挾まれ、遂におつるを失つた富五郎は、その三年前が忘れられずに、同じ宿命におかれた想思の二人に救いの手をのべてやるというのである。

ロケ地白浜は伊東からバスで約二時間の河津温泉から、更に三十分揺られた海岸で、下田にも程近く、白砂の美しい浜辺で名高い。二月の初めというのに桃は咲き鳥は唄う南伊豆を舞台に、天気は良し、田阪監督の演出の下、撮影は快調に進められて行く。テスト一回で本番になると殆んどOKで撮り直しなしと云う大変な早撮りである。

海岸の場面を撮り終えると、カメラは墓地に侵入して、墓場の中を縦横無尽に荒し廻る。朝の七時半に開始された撮影は、昼までに早くも二十カットを撮り終えてしまい休憩となつた。

そこで田阪監督を摑えて抱負を訊いてみる。

「この間〃鯉名の銀平〃を見て友右衛門さんを撮りたいと思つていた所へ、新東宝から話があつたので、今までの友右衛門さんにない味を引出してみようと張切つているんです。今までの彼は芝居の形や約束といつたものと映画独得のものとを分けてやつていたんですね。それを私は映画に於ても芝居の形や線の美しさを生かしてやつて欲しいと思つています」

昼からの撮影も依然スムースに続けられて行つた。



「雪之丞変化」で初出演 東千代之助の横顔

その昔林**長二郎**が主演大ヒットした時代劇の巨篇「**雪之丞變化**」が、今度東映京都で再映画化される。題名はそのままの「雪之丞変化」監督は**佐々木康**で**木下藤吉**のシナリオだが、この作品で時代劇の新星が誕生しようとしている。往年の**長谷川一夫**の向うを張つて雪之丞と闇太郎の二役を演ずるこの新人は梨園の名門**阪東蓑助**の内弟子で廿七才の**東千代之助**君。六代目**杵屋彌三郎**の次男で、**尾上鯉三郎**さんは伯父に当ると云う生粋の芸界育ちと云うわけ。

幼い頃から邦楽、日舞を習い今では花柳流、藤間永代流、阪東流の踊りを習得して、浜松、名古屋祇園などで日舞の先生を致したこともあるとか。

五尺六寸、十七貫の堂々たる体格でいながら女形の線の美しさも身につけた美丈夫の彼は、映画俳優への憧れ止みがたきところへ東映マキノ重役から映画入りのすすめがあり、師匠の蓑助さんの激励もあつて、今度の映画入りとなつたわけである。

「本当の話、映画ではずぶの素人ですので、これから一年生のつもりで一生懸命やろうと思つています。師匠の蓑助さんもいろいろ指導してくれると思いますが、映画界の諸先輩のご鞭韃をお願い致したいと思つています」

と仲々抜け目のないご挨拶。さすが舞踊名**阪東伊三郎**の日舞教授たるをうしなわない。

時代劇の若手スタアの成長が全くと云つていい程、認められない今日の映画界にこの人の成長は楽しみと云うべきか、

第一回の演出に当る佐々木監督は東君は仲々良いフェイスと体格を持つているので、まず第一にエロキューション（台詞）の勉強を一生懸命にやつてもらつて、是非ともデビュー作の雪之丞を成功させたいと思つています。これが三部作で封切られることも、彼のために大変効果的なんじゃないかと考えていますよ」

と語つている。

ともあれ首尾よく雪之丞と闇太郎の対称的な人物の二役を演じこなせば、第二の林長二郎たるのも至難ではないだろうと、専らの下馬評。

この作品に続いて同じく長谷川一夫となつた長二郎が東宝で製作した「**蛇姫様**」の映画化が企画されているとか。さしづめ東千代之介扮する千太郎がスクリーンに登場すると云うわけである。



「江戸城炎上」の京都ロケ お傳の方で張切るスタッフ

あと五秒、四秒三秒、二秒、一秒……ハイ、キャメラ！ **阿部豊**監督の声に応じて間髪を入れずキャメラが廻る。僅かな雲の晴れ間を狙つての強行撮影である。同時にスタートし大阪でロケ中の五所監督「**大阪の宿**」と呼応し、ここ京都では阿部監督初の時代劇「**江戸城炎上**」がこれ又オールロケで撮影を続けている。



原作は東京タイムス、京都新聞に連載された**邦枝完二**の「**春色お伝の方**」で、**松浦健郎**、**清水信夫**の共同脚色により、阿部監督を始め、撮影の**三村明**、照明の**藤林甲**録音の**神谷正私**、美術の**進藤誠吾**音楽の**古賀政男**とスタッフはベテラン揃い。

何しろオールロケというのでスタッフの連中、天候に気を配ること一方でない。だが生憎二月初めの京都の空は、朝は必ずといつていい程雲一つなく晴れ上つているが、昼にもならない中に何処からか黒雲が湧き起つて来て撮影を妨げてしまう。今日はそれでも午前中は割合いに晴れていて、西本願寺のシーンが二カット撮れた。



新人ご指名 ロツク・ハドスン

〃戦いの矢〃で活躍する ROCK HUDSON

「ウオルツシュの親爺，みんな頑固おやじつて言うけど，僕にはとつてもいいんだ。ただ何時までたつても少年扱いしてね，あんまり若い女優と噂立てられたりしない方がいい，だつてさ。三，四年前にはね。たまには気の利いたロマンスの一つもあつていいじやないか，つて言つてたくせにね」

ロツク・ハドスンはこういつては他愛ないラオール・ウオルツシュ監督の蔭口をきくのがお得意らしい。これというのも，元G I上りで，トラツクの運転手をしていた，この六呎三吋（六尺一寸五分一九七ポンド（二三貫六百四十匁）という大男をロサンゼルスの町角からひろいあげたのが，彼ウオルツシュ監督だからだ。

「先ず，監督にみせる顔，つまり見合写真がないといけないつて言うんでネ僕にすすめた奴に金を借り，ついでに背広も借りて，撮つたというわけさ。つんつるてんの洋服を着てる僕を見て「なかなか背が高い。やとつてやろう」つてわけさ。

監督から端役をもらつて初めて映画「戦闘機中隊（ファイタ・スクワドロン）」に出たロツクは，次の年の新人募集期にユニバーサルから白羽の矢を立てられ一九四九年に初めての主役をもらつた。以後，彼の主演作品は 25 本になる。ユニバーサルでは，先年度のトニイ・カーテイスについでスタアにしようと力を入れている。最近作だけでも「砂漠の鷹（デザート・ホーク）」「ネルスン一家が来る（セア・カム・ザ・ネルスンズ）」「怒りの河（ベンド・オブ・ザ・リバア）」「誰か僕の彼女を見たか（ハズ・エニィ・ボディ・シーン・マイ・ガル）」「スカーレツト・エンジエル」「西の地平線（ホライズン・ウエスト）」「ローレス・ブリード」「セミノール族」「海の悪魔（シー・デヴィルズ）」「王者の剣（ゴールドン・ブレイド）」「神の国へ（バック・トウ・ゴツズ・カントリイ）」「戦の矢（ウオア・アロウ）」という忙しさ。この間にパイパアローリイ，ベテイ・アボツト，テリイムーアとロマンスを伝えられるなど，なるほど，トニイ・カーテスが，

「あの男ほど他で見ていて忙しい人間はない」と言うわけだ。

黒いウエーヴの髪は密で，優しい丸い眼に，それの影のように添うやわらかい眉毛の曲線，典型的2枚目の素質と，いかめしく高い肩が盛り上つた肉体の持主で，それがロツクフアンのたまらない魅力。

1925年11月7日イリノイ州ウイネツカ生れでニュー・トリオ・ハイ・スクール卒。44年から46年まで海軍に入籍帰国後，ロサンゼルスの電機屋に勤めG I法で南加大学に入学しようとして失敗，ラオール監督に見出されたわけで，最新作は3Dの「コチーズの息子タザ」がある。



取扱店

定価140円(配達送料共)—外国送料25円—

★前金は頂きません★

本誌は前金を絶対に頂きません。配本と同時にその都度引換へにお支拂い下さい。最近外務員で前金を徴集するものがありますが、弊社ではその責任を負いません。

国際情報社営業部



讀者のページ



写真上は東京都杉並区方南町芳武銑一さんに送られたデビイ・レイノルズのポート，左は岡山市大安寺東正野田245光田延二郎さんへのアラン・ラツドのポート

「山の音」をみて

大阪市西区九条南通一丁目一四九
鎌田和子（学生・二十二才）

芸術院賞に輝く川端康成の「山の音」を「めし」「夫婦」「妻」の名匠成瀬巳喜男の監督で映画化されたのは周知のことである。原作では鎌倉の谷の奥に長い人生を歩んできた信吾という父が、静かな夜などに聞く海の音にも似た深い山の音に、人間の死を考え、そう言う父信吾の、嫁菊子に対する気持を相当深く掘下げて、この小説のテーマの様なものになつているのであるが、映画ではその点はある程度焦点がぼかされている。文芸作品を映画化した場合、原作と映画を比較して是非を云々するのは批評の常道であるが、原作に如何に忠実であるかと言う事が必ずしも映画として秀作を意味するものではないと思う。

映画「山の音」は日本の家族制度から生じた夫婦愛の破綻、老齢の父と若い嫁の美しい感情の交流が、成瀬監督のセンスに消化されて、ストーリーより、感情に重点をおいてタンタンとした人情味をもつて描かれている。ともすれば抽象的な固さを盛り勝ちな感情の描写を、柔かくこなして原作の味に近ずけた成瀬監督の感覚は、愚作の多い邦画界には喜ばしい存在である。只ジャーナリズムをして文芸作品とうたわせた「妻」「夫婦」「めし」等の夫婦ものの蒸返しで文芸作品をねらうマンネリズムに陥る事の危険を強調しておこう。

ヒロイン菊子が家族制度の古い殻を破つて婚家を出るその事自体は悲劇ではない。サザエに象徴される古い家族制度のシガラミに縛られて、ひそかに泣く妻の姿こそ悲劇だと思う。房子や絹子にも女の悲劇をみ、菊子に対するささいないたわりが、却つて彼女を束縛しているのを知つて自由にさせる父信吾の情、これが女の真の悲劇を理解したシュウトの深い愛情だと言える。この深遠な人格を有する信吾を演ずる山村聰の演技は安心して観賞出来る。

「グレン・ミラー物語」は素晴しい

栃木市富士見町一一五五
田村圭佑（学生・十六才）

製作A・ローゼンバーグ、監督A・マン主演Jスチュアートのトリオによるユニバーサル作品。独得のミラー・スタイルによるその楽団のヒット・ナンバー「月光（ムーンライト）」「セレナーデ」「イン・ザ・ムード」等がそれぞれ違つた場面で演奏されるが、非常にユーモラスな場面に使われた所もある「セント・ルイス・ブルース・マーチ」の時等はその一例で閲兵式が行われているが、兵士達の歩調は乱れがちである。たまりかねたグレンが将校の並んでいる台から飛びおりて、指揮をしてしまう。すると俄然兵士達は元気に歩き出すのである。セリフも面白い。「月光」を練習する場面で、グレンが演奏者の立つ位置を決めている。するとそばで見ていたシュリブマン（G・トビアス）が「四トラに四トロか。始まつたら屋根が吹き飛ぶだろうぜ」と言う。グレンとヘレンが結婚式をあげた直後のタクシーの中でも面白い。ヘレンが「男の電話を取り上げただけで大急ぎで来る、まるで馬鹿な小娘みたいね」と言うとグレンの答がふるつている。「君はよくやつたよ」

しかし何といつても一番よかつたのは、ナイト・クラブでのアームストロングとその楽団の演奏する「ベイズン・ストリート・ブルース」である。廻転する青赤黄等の照明につれて画面がとりどりのその色一色となつて素晴しい効果を出す　そしてその色の中で歌うアームストロングの表情のクローズアップが又素晴しい。この場面は後の方では、ジャム・セッションとなるが、クルーパのあざやかな手さばきも見ものだつた。ラストシーンは「茶色の小瓶（リトルブラウンジヤグ）」の聞えるうちにアリスンのクローズ・アップで終るのだがここではちよつとしんみりさせる。



A・マンの演出もよいし出演者皆よい。特にスチュアートとアリスンは「甦える熱球」以来の顔合せであり呼吸もよく合つていた。グレンの親友チャミイ（H・モーガン）もなかなかうまく面白い場面を出す。音楽は、監督J・ガーシェンヌン。本もののミラー楽団員を七人も集めただけあつて非常によい。ジャズ・ファンに見逃せぬ作品であり楽しい映画である。

「二つの世界の男」の寫會をみて

和歌山県海草郡西脇町西の庄
西垣雄（学生）

雪景色の中に深刻な動きと二つの世界に分別されているベルリン……戦争のもたらした運命は人間の心迄も変化させた。主人公のイヴォも哀れ此の洗礼を受けた一人である。巨匠リードは此の複雑でデリケートな人間心理を愛と罪を主眼点にして、二つの世界と云う名の許にしばられた人間の悲しさを描いている。一作毎に充実して行く彼の作品は芸術である。これは素人批評の域では無いかも知れんが映画技術の素晴らしさを指摘せねばなるまい。巧みな映画面の構図、生きた撮影、マッチした音楽、リード独得の少年の起用、全てのシーンに無駄が無く第三の男にもひけを取らぬスリラー的な追力、現地ロケの魅力等、これが完全にその役割を果たしてこそ良い映画が出来得るのであろう。イヴォの強い性格はよく描けていたが他の者は何が描きたり無い。白い雪と黒のコントラストは黒白映画ならでは描く事の出来ない世界だ。国際スターの共演と相まつて題名から受ける以上の政治色も見られず異色ある作品である。





★ハロー、僕もファンファンの仲間入りをさせて下さい。洋画はもちろん、ジャズ（ラテン系）は大のマニアです。「命を賭けて」はすばらしかつた。歌手にマミイ・ヴアン・ドーレンが出て「ユー・ビロング・トウ・ミイ」を唄います彼女は将来有望ですね。洋画ファン・ジャズ・ファンの方は文通を望む（大阪府貝塚市近木町、竹本潤一郎）

★始めまして。僕は大のフランス映画党。ごひいきスタアは誰が何といつてもダニイ・ロバン「真夜中の愛情」をごらんになつた方なら必ずや彼女に心をひかれたと思います。「恋路」「アンリエットのパリ祭」が待たれます（松山市道後御手洗町九五三、檜垣嘉朝）

★「バカヤロー、何故オレ見たいない男のポートをのせない」と私が先日ハリウッドに行つたらある男からこうどなられ、私は小さくなつて帰国しました。どうかこの男の心を察して載せてやつて下さい。その名はリチャード・ウイドマーク（新潟市礎町三二〇九九、加藤勝造）

★洋画ファンの皆さまに一問呈します。次に掲げるイニシャルを持つ俳優の名一名あてあげて下さい

1、B・B2、C・C3、D・D
4、G・G5、J・J6、M・M
7、R・R8、S・S

さて、その名は
1、バーバラ・ベイツ、2、チャップリン、コルベル、カルヴエ、3、ドリス・デイ、4、グリア・ガースン、グローリア・グレアム5、ジエニフア・ジョーンズ、G マリリン・モンロウ、マリリン・マツクスウエル、7、ルス・ローマン、8シモーン・シモン、シモーヌ・シニヨレ（静岡、類十兵衛）

★私なんか相手にして下さらないのねと逞しい腕にすがりついても浩ちやんは黙つて行つてしまいました。目がさめると涙で一杯でした。でも私たちの浩ちやんは絶対にそんな方ではないと信じています。男性的で、しかも情に脆く友情に厚いとか……だから益々好きになつてしまいます（北海道函館市高砂町、加地貞子）

★ファンの皆さま、僕も岸恵子さんの大ファンです。「旅路」「君の名は」を演じた彼女の熱演ぶりはファンとして見逃せない映画です近く封切られる「家族会議」に期待を持つて声援してあげましよう。（愛媛県松山市北柳井町、檜垣友市方、川本正）

★皆さま初めまして。僕は丹波の山猿の弟です。兄さんはとてもすてきなポートを送つて頂いて羨ましい。僕は「第三の男」に出演のジョセフ・コットンと西部劇のジョン・ウエイン、それから佐田啓二美空ひばり、川田晴久のファンです。皆さん、今年の映画俳優の人気投票をしてはいかがですか。お便りお待ちしています（京都府綾部市相生町、辻村彰）

★十六歳の洋画ファンです。ファリイよりもたのもしく、ワグナーよりも大人で、ブランドよりも知的で野性的なあのリチャード・バートンです「従姉レイチエル」が早く封切られるものを待つています（東京RCA）

★そつと触つてみたら春の足音が聞えるような。有馬稲子さんは私のスクリーン・ラヴア（新潟市、北原藤村）

スタア・ポート贈呈



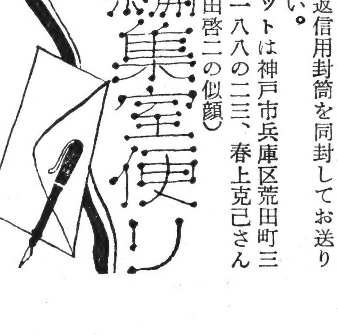
映画情報では「ファン・ファン」欄と「あなたの批評する頁」に投稿され採用の分には、キャビネ版8×10版のスタア・ポートを贈呈しています。これは、と感じられた作品、好きなスタア評、映画への希望、なんでも結構ですから思つたことをどんどん書いてご投書下さい。規定は左の通りですが厳守してないものは採用しません。

★ファン・ファン欄この項へは必ず葉書使用のこと。希望スタア名を二、三書き添えておいて下さい

★批評する頁原稿用紙四百字詰め二枚（計八百字）以内に、きちんと楷書で書き、と住所氏名（ペンネーム、使用可）職業、年令、希望スタア名をそえて下さい。

★スタア似顔をお送り下さるかたは一枚一枚の裏にご自分の住所氏名を明記し、希望スタア名も書き入れて下さい。原則として採用原稿はお返ししません。特に希望の方は返信用封筒を同封してお送り下さい。

（カットは神戸市兵庫区荒田町三丁目一八八の二三、春上克己さんの佐田啓二の似顔）



★「花と龍」のロケイションで北九州若松市を訪れ、引続き博多の各社の九州支社を訪問、夜行列車でただちに尾道にやつて来て「放浪記」のロケ隊に加わつて因の島に渡るなど忙しい十日間。おかげで今月は各地の愛読者によろこんで頂ける特集頁が組めました。今後も出来るだけローカル・カラーのある材料を取入れたいもの。

★帰ると入変りに吉岡記者と倉田キャメラマンが下阪「大阪の宿」「芸者小夏」などで活躍するといつた具合で、このところ編集部はまさに東奔西走。

★嬉しいのは地方の愛読者の生声をいろいろと聞けること。山間へき地で、手塩にかけた「映画情報」を発見した時の喜びと云うのは、僕らだけの知る醍醐味とでも云うべきか……

★エノケンさんが全快その祝賀会の、心嬉しき風景の数々、近頃になく感激致した次第。

★洋画界も漸く活況を呈して、いよいよ陽春のシーズンの感一汐。嬉しき次第。

（加東康一）

映画情報　三月号
昭和廿九年三月十五日印刷
昭和廿九年四月一日発行
編集兼発行人　石原俊明
印刷所
発行所　国際情報社
東京都渋谷区上通り一ノ二三
電話青山（40）一〇五一
二六二二、二六〇二三
振替口座東京四五〇〇〇番

MOVIE PICTORIAL

昭和廿六年十月三日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
昭和廿九年三月十五日印刷　昭和廿九年四月一日発行



若尾文子
（大映）

APR 1954

VOL 19 NO 4